

市原郡衙の厨

— 古代いちはらの給食センター —

国衙はどこだ！

「市原厨」銘墨書土器と上総国府

～歴史講座「市原郡衙の展開」から読み解く～

市原地区が有力になった

市原里づくりの会・山越国臣

古来の市原市役所
市原市の行政区画は、「千市」ですが、奈良・平安時代には「上総国市原郡」と呼ばれていた。現在の県庁に当たる「国府」は、市原郡衙と呼ばれました。上総国府は、市原郡衙にあったと推測の姿は明らかだ。

「市原厨」銘墨書土器
か、令和5年度の郡本遺跡調査では、大型の柱穴が柱穴の中か原厨」でされた土器の底に、赤外線カメラで肉眼で確認することができた。赤外線カメラで肉眼では不鮮明ですが、赤外線カメラを通してははっきりと見ることができた。

市原地区が有力になった
市原地区にある遺跡群に注目して、赤外線カメラで肉眼では不鮮明ですが、赤外線カメラを通してははっきりと見ることができた。

市原郡衙を考える
「市原厨」銘墨書土器の郡本遺跡群に市原郡衙の関わる施設が置かれて高まりました。今後は、市原郡衙としての側面に注目して、赤外線カメラで肉眼では不鮮明ですが、赤外線カメラを通してははっきりと見ることができた。

市原地区が有力になった
市原地区にある遺跡群に注目して、赤外線カメラで肉眼では不鮮明ですが、赤外線カメラを通してははっきりと見ることができた。

市原地区が有力になった
市原地区にある遺跡群に注目して、赤外線カメラで肉眼では不鮮明ですが、赤外線カメラを通してははっきりと見ることができた。

今日お話しする内容

●上総国府(国衙)の姿が見えてきた

- ①市原市教委が軌道修正? 「郡本遺跡群」の登場 なぜ無い「市原遺跡群」
- ②「古甲・古光遺跡」の発掘調査で大きな成果
- ③「市原厨」銘墨書土器(平安時代初期)の出土。古甲・古光地区は市原郡衙域内の可能性
- ④古甲・古光地区に100年近く建てられた大型掘立柱建物。厨、館の可能性はある
- ⑤4度同じ柱穴(約1.5m)に建て替え。100年後に廃絶する。なぜだろう?
- ⑥多様な地域からの土器、東濃産緑釉陶器、白磁、漆パレットの出土は国衙レベル

●わたしの考える「上総国府(国衙)―社寺配置から核心に迫る―

- ①やはり古甲・古光は「古い「国府」の転化ではないか。字名の重視
- ②国衙は移転した。きっかけは「国分寺建立の詔」(741年)だったのでは
- ③国分寺建立と新しい国衙の建設が同時進行で行われた?
- ④国分僧寺・尼寺。最初は仮設的な建設だった。A期、B期の中心軸のズレ
- ⑤国守・百済王敬福は渡来系技術家集団の差配が主任務。石川名人は都市づくりのエキスパート?
- ⑥「市原厨」銘墨書土器の出土から推理。「市原厨」は郡衙と国衙の食事提供を兼ねた巨大厨?
- ⑦安房国の一時期、上総国への併合と分立。なぜ繰り返させられたのか

●では、どこに移ったのでしょうか?

- ①市原地区が最有力。国衙にふわしい遺構、遺物の検出

郡本遺跡群の発掘調査・成果発表

令和7年度第2回郷土学習講座
6月29日（日）10:00～12:00

ぐん が
市原郡衙の展開

ぐん が
市原郡衙の展開

令和7年度第2回郷土学習講座
令和7年6月29日（日）10:00～12:00

市原市埋蔵文化財調査センター
「市原厨」の銘墨書土器が見つかる

ぐん が
市原郡衙の展開

歴史講座「市原郡衙の展開」の発表者・浅野健太氏（市原市埋蔵文化財調査センター主任）

市原市教育委員会
埋蔵文化財調査センター
主任

2025年6月に開催・市原歴史博物館

郡家(ぐうけ)・郡衙とは

- ▼郡衙(郡家)は国府の補完的な役割を担った地方行政機関。7世紀半ば(大化の改新後)に郡は「評(こおり)」と呼ばれた
- ▼上総国には11郡が置かれた。市原市に「市原」、「海上」の2郡があった。大宝律令発布時(701年)には、安房国4郡も上総の管轄だった
- ▼郡衙は大きく郡庁、正倉、館、厨などで構成。周辺には集落、工房などがあった。郡庁は現代の市役所にあたる
- ▼郡司には国造の流れをくむ地方豪族が任じられ、任期のない終身官
- ▼政務を行う郡庁は国庁のミニレベル。方50歩、コの字型で正殿、東西脇殿、広場など。

古代の地方官衙と社会(佐藤信・山川出版社)参照

「市原厨」銘墨書土器

- ▶ 郡本遺跡群で初発見の具体的な市原郡衙の施設名を書いた土器。
- ▶ 「市原郡衙の厨」の備品であることを明示するために墨書。→現在の食堂の食器に店名が書かれているイメージ。
- ▶ 市原郡衙の厨と関わりのある施設である可能性が高い。（厨か館か）
- ▶ 9世紀初頭の須恵器に墨書。県内最古の「市原」という字



赤外線写真



現物



復元レプリカ

大きな発見と成果。色々なことが分かってきた

十数年前。市教委の見解

上総国府はどこにあったか？

上総国府はどこにあったか？ (平成24年度歴史講座より)

令制国(りょうせいこく)とは、律令制に基づいて設置された日本の地方行政区分である。奈良時代から明治初期まで、日本の地理的区分の基本単位であった。

国衙(こくが)・国庁(こくちょう)……………行政機関のこと
国府(こくふ)・府中(ふちゅう)……………国衙を中心とする都市域のこと

市原地区
郡本・門前地区
村上地区

移動

郡本・市原説
○「府中」の名称が能満にある府中日吉神社が残っている。
中世国府があり、古代の国府もあったという説。
○藤井地区に伝わる銘文、懸仏には、「守公神御正所者上総国府中国庁国御目代日高彈正朝光沙弥道光」(表銘文「金寶弘覚大進沙門応永9年」(1402)6月1日(裏文)とある。
○郡本・市原周辺には、字名に「藤井」・「藤井」が存在する。古甲は古国府。
○広範囲に奈良・平安時代の遺構がある。

移動説
○古代の国府・国庁は必ずしも一か所にとどまっていない。
○出羽、肥後などのように低地や低い丘陵から、その後高台へ移動している。

村上説
老川)に面することから、国府津などの公的な施設の可能性があると

平成24年度(2012年)歴史講座の配布資料

5

「郡本・市原」「村上」「移動」の3説

郡本遺跡群の調査地点

赤文字は展示関係資料出土地点

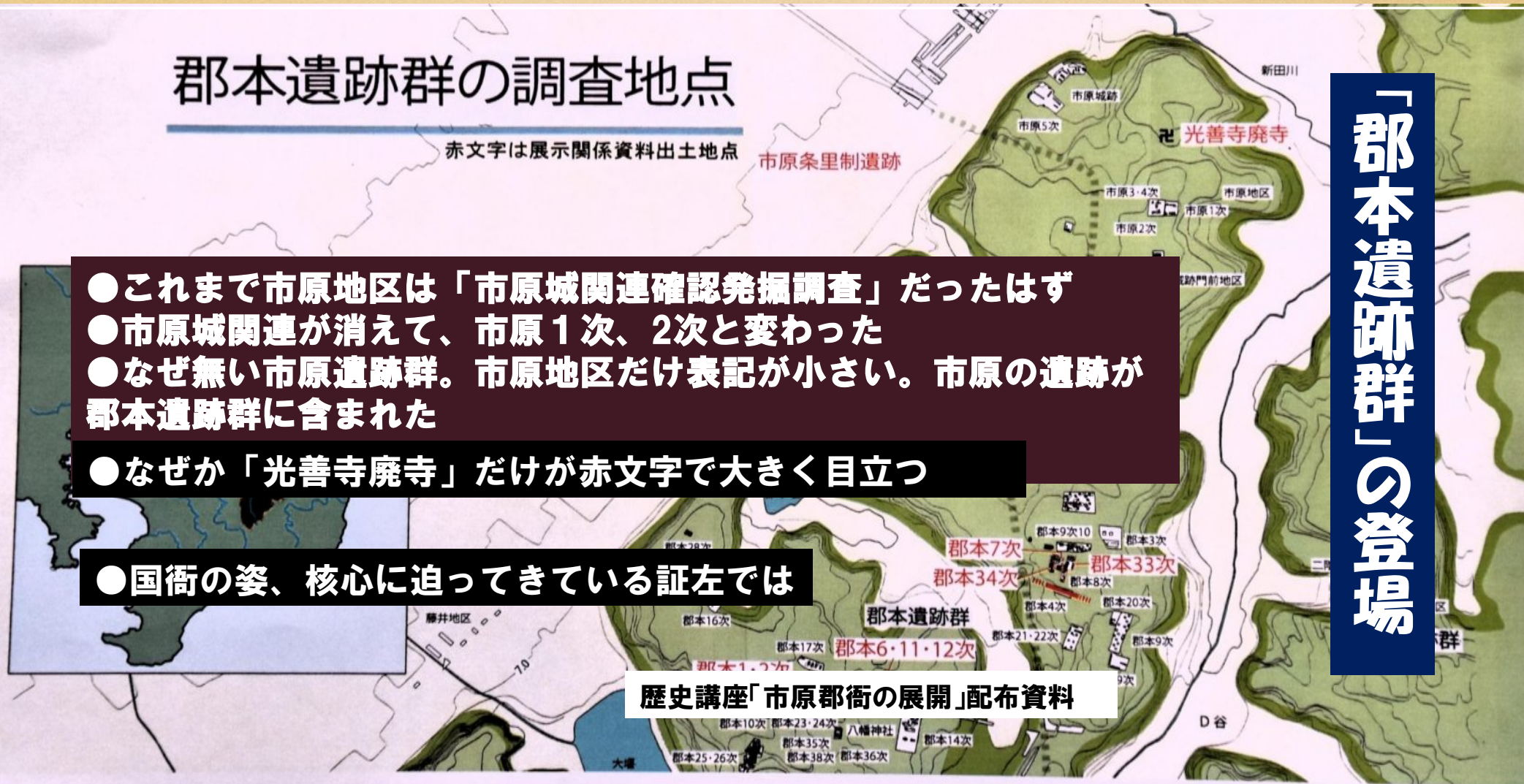
市原条里制遺跡

- これまで市原地区は「市原城関連確認発掘調査」だったはず
- 市原城関連が消えて、市原1次、2次と変わった
- なぜ無い市原遺跡群。市原地区だけ表記が小さい。市原の遺跡が郡本遺跡群に含まれた
- なぜか「光善寺廃寺」だけが赤文字で大きく目立つ

- 国衙の姿、核心に迫ってきている証左では

歴史講座「市原郡衙の展開」配布資料

「郡本遺跡群」の登場



「市原厨」

銘墨書土器

発掘の成果



県内最古の「市原」とい
う字。平安時代初期

「古甲」の字名が残る地域

工房跡が検出されている

幅8mの大溝遺構

この地下で「市原厨」銘墨書土器が見つかった

市原市郡本

大溝跡遺構

工房跡？

新たな遺構確認が期待された

2023年11月。発掘確認調査

期待高まった発掘調査

大溝遺構

工房跡





遺構が徐々に姿を現した

The image shows an archaeological excavation site. A large, rectangular pit has been dug into the ground, revealing a series of stepped, terraced walls. Several workers are visible within the pit, some kneeling and others standing, engaged in excavation work. The soil is a reddish-brown color. In the background, there are residential houses and a white tent. An orange safety fence runs along the right side of the excavation. A surveying instrument on a tripod is visible on the left side of the pit.

慎重に発掘作業が進められた





重要な遺構が出たのか

柱穴跡が確認できる

念入りの調査

大柱穴群の検出

直経約1.5m

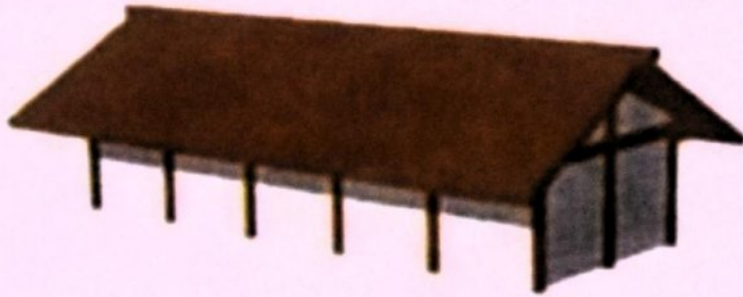




歴史講座「市原郡衙の展開」配布資料より

掘立柱建物は官衙など重要建物が多い

掘立柱建物と竪穴建物



掘立柱建物復元図（国分寺市教育委員会
2014「武蔵国分寺のはなし」）



竪穴建物復元図（国分寺市教育委員会
2014「武蔵国分寺のはなし」）

竪穴建物は住居など一般的

郡本遺跡群・古甲地区発掘調査成果のまとめ

- 奈良時代から平安時代の遺構が検出された
- 奈良時代は「掘立柱建物跡」に「竪穴建物跡」が主体
- 当初の工房的施設の強い施設から、次第に饗応を伴う施設に変化
- 「市原厨」銘墨書土器の出土（平安時代初期）。郡本地区に市原郡衙が置かれた可能性が高まった
- 市原郡衙の厨か館の可能性。多様な地域から土器が供給された。常陸産の須恵器が目立つ
- 9世紀初頭。厨の性格は変わらないが、かなり格調の高い大型施設に整備された
- 平安時代になると大きな掘立柱跡の建物が主体。4回の建て替え。壺地業の礎石建物に建て替えられた
- 10世紀中葉。大型掘立建物跡は廃絶。竪穴建物が主体になる。東濃産緑釉陶器(椀)が出土
- 前段階と大きく様相が変わるため国衙機構や有力富裕層の屋敷等が置かれた可能性がある

歴史講座「市原郡衙の展開」、郡本地区第34次発掘調査報告書参照

◆「郡本」地名の由来は市原郡衙（郡庁）からきていたようだ

古代の厨



古代史復元・古代の都と村(講談社)参照

17 庶民の食膳



16 役人の食膳



古代史復元「古代の都と村」（講談社）参照

出土した食器類

- ▶ 比較的須恵器が多く出土する。
- ▶ 高盤（たかばん）や盤（ばん）といった官衙で多く出土する土器が多数出土。

→官衙遺跡で特徴的な土器の様子



貴族の食事（奈良文化財研究所2004a）



下級役人の食事

●多様な産地の土器出土

●畿内産土師器。常陸国産須恵器が多い



庶民の食事



高盤

盤

郡土地区出土須恵器

歴史講座「市原郡衙の展開」配布資料より

畿内など多様な産地の土器出土。

郡司クラスで常備できたのか

厨の大型化？



市原学校給食センター・郡本

市原郡衙と上総国衙の食事提供を担っていたのではないか。効率化のため。国の厨だった可能性も

現代（地域）の厨



市原町会集会場(光善寺本堂内)

古甲地区に鍛冶工房があった

鉄滓(金クソ)

炉の部分？

蝦夷対策として関東の
国々は兵たん基地とし
て武器づくりを担った

国衙機構の工房の可能性？

市原市門前で表採

鍛冶工房想像図



上総国府・郡衙にもあった

好評だった企画展。
発掘成果の品々が
展示された

企画展



「市原厨」銘墨書土器を初公開!

2025.6.24(火)～7.21(月・祝)

講座
「市原郡街の展開」
6/29(日)10:00～12:00
【博物館多目的室】

体験
「古代のまじない人形づくり」
7/6(日)10:00～11:00・13:30～14:30
【博物館多目的室】

Museum Center 市原歴史博物館

「ここまでわかった市原
郡街・古代いちはらの官
衙遺跡」企画展

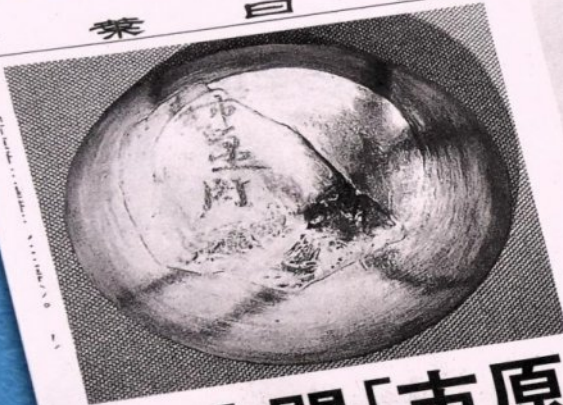
市原歴史博物館

2025年(令和7年)6月29日(日曜)
報

(日刊)

2025年(令和7年)6月

業日報 (日刊)



奈良・平安時代、
たる市原郡衙(ぐんが)が
れる市原地区・郡
で「市原厨(いちばらぐち)」と
れた土器が見つ
施設」名を指し、
に関連する施設
な手がかかり。市
企画展で初公開

郡衙立

郡本遺跡

奈良・平安時代、
たる市原郡衙(ぐんが)が
れる市原地区・郡
で「市原厨(いちばらぐち)」と
れた土器が見つ
施設」名を指し、
に関連する施設
な手がかかり。市
企画展で初公開

市原郡衙立地の手がかい

郡本遺跡群で発掘
重要
中の

「厨」墨書の土器
重要
中の

初公開「市原厨」墨書の土器

新聞で大きく紹介された

2023年度に実施した同遺跡
群第34次調査で、大型の掘立柱建
物跡の直径1・5メートルある大きな柱
穴の中から見つかった。土器は平
安時代初期の9世紀初めのものと
みられ、底に墨書された最古の「市原」
内出土品に記された最古の「市原」
の文字となる。
「厨」(くち)は、同館に
よると「市原郡衙のさま」を意味する
設で働く役人の食事を用意する
いわば古代市原市役所の給食セン
ターのような施設。調理した料
理を盛り郡衙の施設に届ける際
器が所在不明にならないよう明記
したとみられる。
過去の発掘成果などからも同
遺跡群には郡衙が立地していた
と推測されてきたが、土器は市
原郡衙の厨や、宿泊施設である
「館」など郡衙関連施設の存在を

歴史博物館で企画展

29日には
査をまとめ
査センタ
「市原郡
座を開き
話す。午
人午前



2025年6月29日付け「千葉日報」記事参照

発掘された品々と成果を展示

市原郡衙の厨・館

令和5年度に行った郡本遺跡群郡本地区第34次の発掘調査では、大型の竪立柱建物と、煮養土器「市原厨」が出土しており、この周辺に市原郡衙の厨が置かれたことが推定できます。また他の遺跡に比べて煮養器の出土量が多く、特に役所の遺跡である官衙に多い、煮養や甕が出土しています。出土した煮養器には茨城県産のものがあり、常陸国から土器が供給されていました。また郡本地区第1次調査で出土した市原市永田・不入家産の煮養器には、「厨」の可能性のある文字が焼成前に書かれていることから、地元の煮養器系からも郡衙へ煮養器が供給されていたことが考えられます。

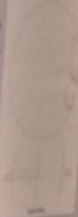


市原郡衙の厨を示す土器



煮養土器「市原厨」は、郡衙跡出土した煮養器の中で最も大きな土器です。この周辺に市原郡衙の厨が置かれたことが推定されます。また他の遺跡に比べて煮養器の出土量が多く、特に役所の遺跡である官衙に多い、煮養や甕が出土しています。出土した煮養器には茨城県産のものがあり、常陸国から土器が供給されていました。また郡本地区第1次調査で出土した市原市永田・不入家産の煮養器には、「厨」の可能性のある文字が焼成前に書かれていることから、地元の煮養器系からも郡衙へ煮養器が供給されていたことが考えられます。

市原郡衙周辺の土器



市原歴史博物館

はん
器盤

郡本遺跡群（第7次）

す え き わん るい
須恵器碗類

郡本遺跡群（第33次）

須恵器の碗



郡本遺跡群（第33次）から出土

諏訪台古墳群は市原郡司層
の墓域。可能性が高い



諏訪台古墳群跡から出土した「灰釉
獣脚付短頸壺」(9世紀初頭)

獣脚付短頸壺の出土は全国
的に少ない。郡司層や有力者
層が所持していたという

市原博物館・特別展示

光善寺廃寺遺跡（現光善寺）から出土の創建瓦

三重圈文縁四葉単弁蓮華文軒丸瓦

市原歴史博物館・企画展

わたしの考える「上総国府(国衙)」

～銘墨書土器「市原厨」発見の成果から読み解く～

- 8世紀後葉。古甲地区の東西棟(建物)が消え、南北棟、竪穴住居跡に変化する発掘調査成果
- やはり古い字名は重要と考える。古甲・古光は古い国府の転化。郡本、門前地区から市原地区に国衙が移ったのではないかと推理する
- きっかけは741年2月の「国分寺建立の詔」だった？
- 同じ年(741・12月)に安房国は、なぜ上総国に併合されたのか。757年に再び分立している。そのころには新しい国衙と国分寺・尼寺の整備が終わった。大国にふさわしい国分寺・尼寺の建立。石材(蛇紋岩など)資材、人材が必要だった
- 国分僧寺・尼寺のA期、B期の中心軸のズレ。当初の仮設的な建設は何を意味するのか
- 「市原厨」銘墨書土器と大型掘立柱建物。9世紀初頭の廃絶。多様な産地の土器、緑釉陶器(椀)、漆パレットの出土は国レベル。郡衙と国衙の厨を兼ねていた。国厨の可能性？
- 社寺配置は語る。地図帳から「上総国府(国衙)」が見えてくる

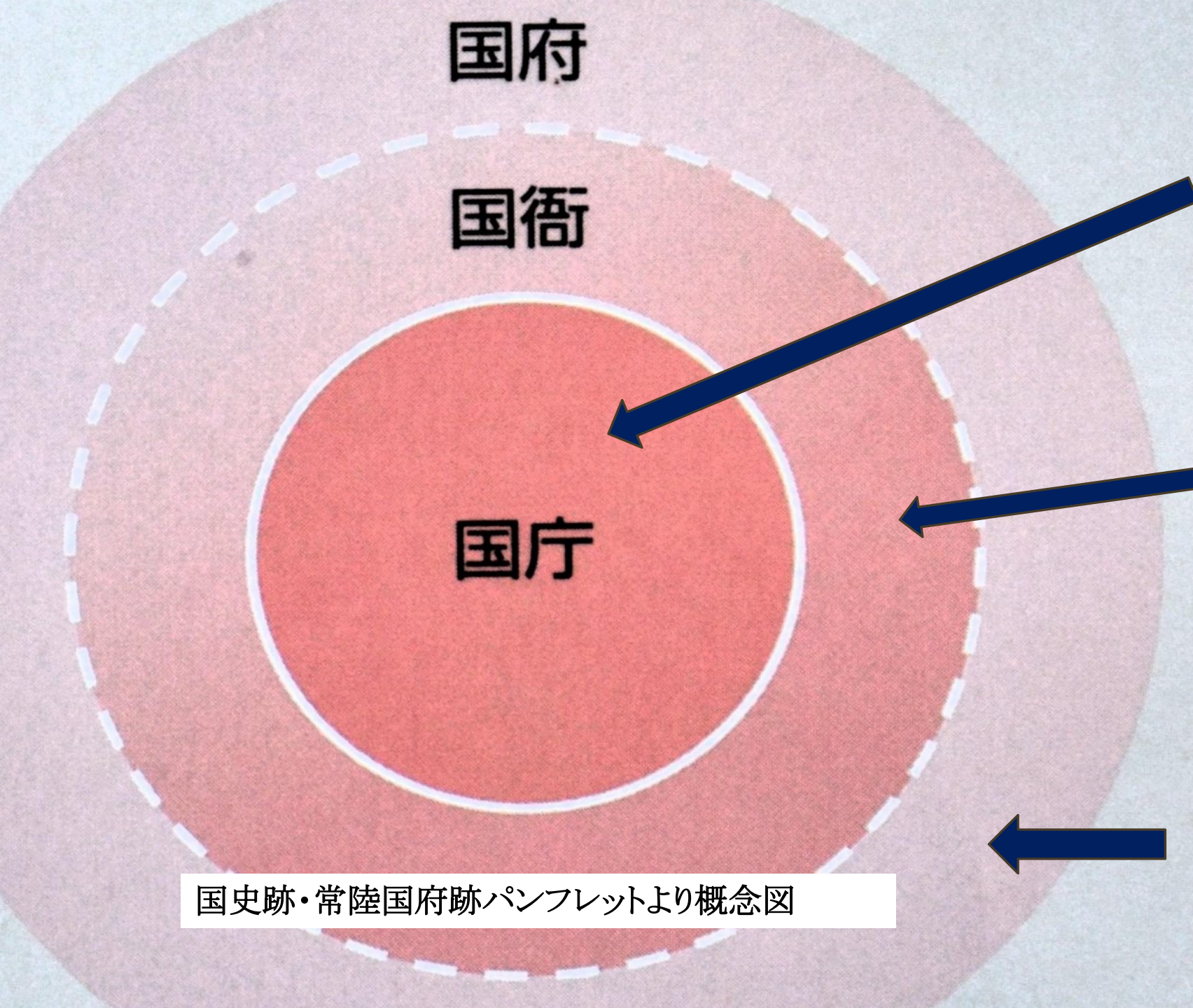
国府とは

●国府は律令時代(奈良・平安)に全国(北海道、東北の一部、沖縄を除く)60余州に置かれた国の行政機関。地方の政治、経済、文化の中心

●国府は、国衙、国庁に細分化される。国は規模によって「大国」「上国」「中国」「下国」にランク分けされ、国からは「守(かみ)」「介(すけ)」「掾(じょう)」「目(さかん)」の四等官が派遣された

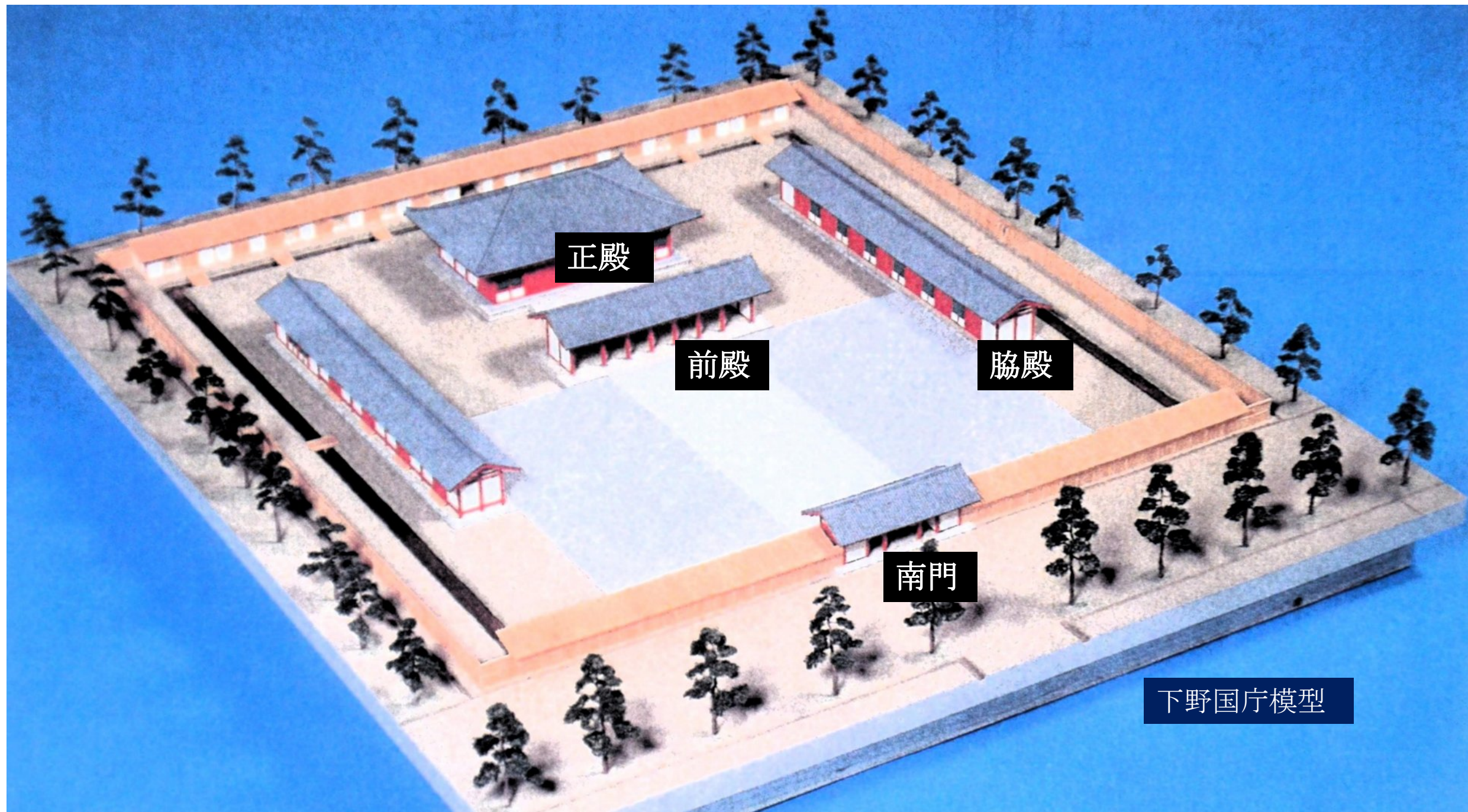
●**上総国の場合**。「大国」で掾と目は二人体制。平安時代初期(826年)に新王任国になる(ほかに常陸国、上野国)。天皇の皇子が「太守(おおかみ)」となり、以後は介が事実上のトップ

●歴代の守には東大寺の大仏建立の際、陸奥の守の時に金採掘に成功、献上して大きな功績があった渡来系の百済王敬福。万葉集を編さんしたとされる大伴家持。平安時代の女流文学「更級日記」の作者の父・菅原孝標(介)。時代が下り織田信長(介)など有名人になっている



国府の全国的な事象

- 国府域、国衙域は一定ではないが、国庁域はおおむね1町（約100町）
- 国庁に向かう「南大路」（朱雀道）がある
- 国衙などを区画する「溝」がある
- 国庁・国衙の西側に官舎（国司館など）が建っている事例がみられる
- 国庁・国衙周辺には条里制水田の名残がみられる
- 国衙・国庁近くに鍛冶工房跡がある



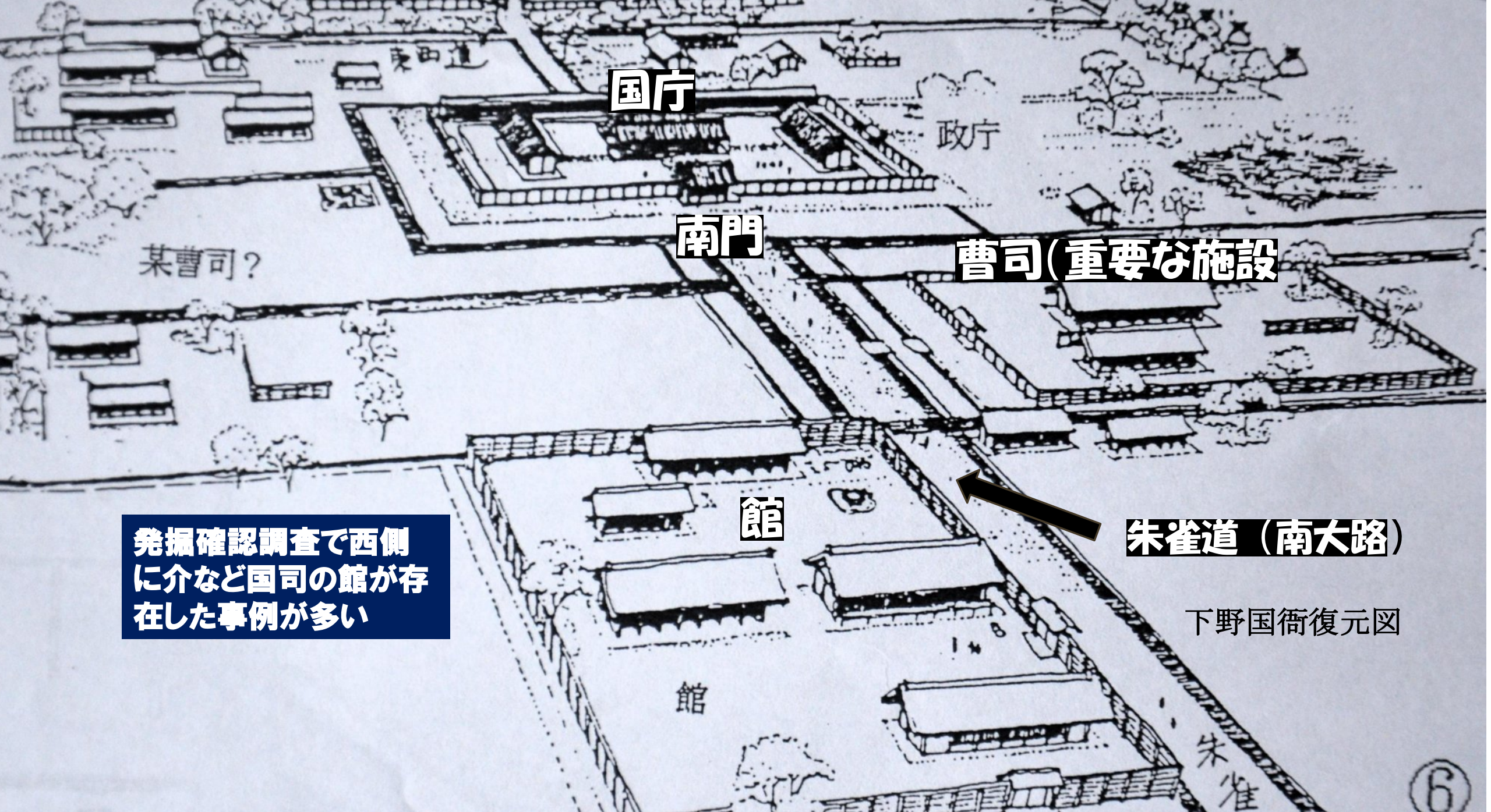
正殿

前殿

脇殿

南門

下野国庁模型



国庁

政庁

南門

曹司 (重要な施設)

某曹司?

館

朱雀道 (南大路)

下野国衙復元図

発掘確認調査で西側に介など国司の館が存在した事例が多い

館

東国(関東)の国衙紹介

進む「下総国府」の解明

次々に新しい事実(遺構)

今秋、全国国府サミットを開催

下総国庁跡確定に期待

て初めて発掘調査されることになった。これまで正確な場所は不明だった国庁跡の確定が期待されている。今月23日には同市立市川考古博物館の山路直充学芸員による講演会が開かれる。【小林多美子】

発掘調査へ

東京都、埼玉県の一部にかけて治めていた「下総国」の国府が置かれた市川市国府台で、その中心となる建物「国庁」の跡地と推定される場所が、同市によ

市川市は「下総国府」遺構の建て替



23日、考古博物館学芸員が講演会

山路直充学芸員が講演会
はありそ
って国府
が確定す
講演会
「ラム」ネ
から、市川
ターで開催
円で、事前
い合わせは
90・84

した市営野球場。現在は新球場の
っている=8月、市川市
奈良・平安時代に下総国
(県北西部など)の中心地
・国府が置かれた同地区で
は、市教育委員会が201
9年から今年8月まで球場
内外で発掘調査を実施。最
大目標とした、政務や祭司
が行われた国府内の中枢工
リア「国庁」の場所の特定
に直接つながる遺構は見つ
からなかった。ただ、掘立
柱の建物跡など貴重な発見
も少なくない。開されるの

「中枢」特定目指す発掘

国府台地区で「
溝。国府台地区で「
遺構の確認は初とい
北西角の区画用の溝が
と想定される場所の発
進めており、当日に同
公開の予定だ。
国府の場所はどこか。球
場の南にある千葉商科大の
駐車場で市教委が同大学
協力を得て2月と9月に行
った調査では7棟の掘立柱
の建物跡や溝、土器などが
見つかった。国府は建物群
がある程度広い区域に特定
の配置で並んでいるのが
徴とされ、球場内北部に
ぼしい建物跡が確認され
いないこともあり、市川
はさらに南では「とのの
を強め、南側のキャン
内の測定可能な場所
遺構がないか、地中
ーを活用した調査
を協議したとい



南大路(朱雀道)跡？

溝跡

下総国府跡遺跡・市川市国府台

国衙・国庁を区画する溝が存在

北東寄りの区画溝跡

市川市（下総国府）では、
官民学の連携で「国府解
明」に取り組んでいる



現地見学会

国衙区画溝跡遺構

溝 1



下総総杜跡

国庁跡？

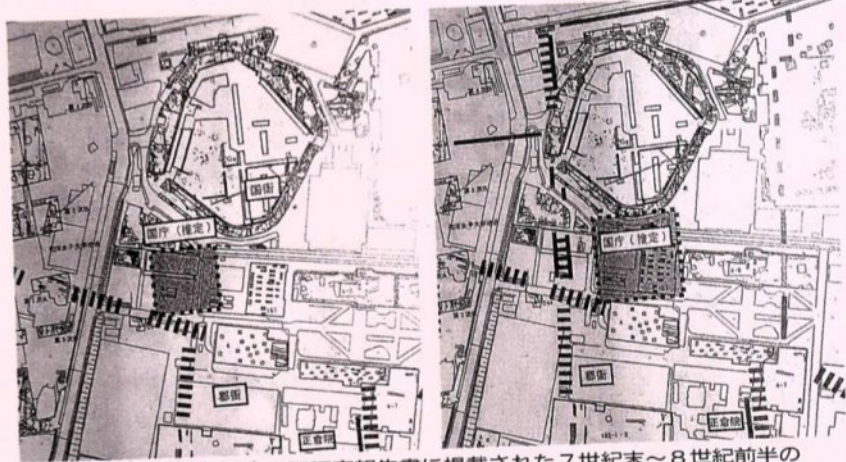
千葉商科大

市川市・和洋女子大キャンパスから



下総の国庁 位置推定

球場南側—千葉商大北側



市川市教委

下総の国庁 位置推定

球場南側—千葉商大北側



市川市教委

中枢エリ

下総国庁の全体像が見えてきた

8世紀後半。新たな道や区画整備。国庁がやや東に移動

国分寺への道など整備のため？

千葉日報2025年5月14日付け1面トップ記事

発掘で出現した「常陸国庁」跡

石岡小校庭から

国史跡「常陸国府跡」パンフレットより



武蔵国府跡

武蔵国府跡

康御殿史跡広場

東京・府中市JR府中本町近<

**JR府中本町駅近くの「国府記念
公園」に復元された柱群**

**江戸時代には徳川家康が、こ
の地に「府中御殿」を建てた**



下野国衙は低地に整備

宮目神社（下野国庁正殿跡？）

西脇殿

前殿

南門

東脇殿

国史跡・下野国府跡パンフレットより

上総国庁にもあった



復元された「下野国庁・前殿（パンフレットより）」

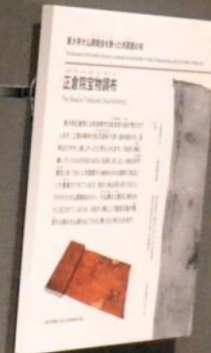
上総国府（国衙）はどこに

都の風薫る
ここに上総国が始まる

The Province of Kazusa was improved
and the government office
and temple were built

政府は日本列島を六十数か国に分け、
これらをつなぐ街道を整えました。東海道
に属する上総国市原郡には、国府と国
分寺が造られています。国府はまだ見つ
かっていませんが、国分寺は都風の巨大
な寺院でした。のちに誕生した武士たち
も国府を中心に活躍したので、いちばら
は鎌倉時代になっても上総国の中心地
であり続けました。

古代・中世
国府は市原郡にあり



市原歴史博物館・常設展示

Each Theory of Kokufu(Provincial capital) in Presumptive the Land

市原、郡本、村上の三地区が上総国府の有力な推定地とされています。市原地区には古瓦が出土した荒巻寺跡寺、「万葉集」の「阿須波の神」を連想させる阿須波神社があるほか、辻地区で大型の建物跡が見つかり、注目されています。郡本地区には「古甲」「古光」など「古国府」に通じる地名があり、古代の施設跡が見つっています。村上地区は養老川水運の要所で、古代の施設が見つかり、国府津の可能性が指摘されています。



巨大な建物跡の発見

The Discovery of Huge Building Ruins

市原城跡辻地区からは古代の竪立柱建物跡が見つっています。地中に柱を埋めた建物で、柱穴は径234.5cm×149.5cmもありました。建て替えによる柱穴の拡大があったとしても、竪立柱建物としては巨大で、役所や寺の重要施設以外には考えられません。当時の国府には、中心庁舎である国庁のほか、多くの施設が展開していました。この建物も国府と深くかかわる施設だったと考えられます。



郡本に残る巨大な礎石

The Huge Foundation Stone that Remains in Kōmoto

郡本八幡神社は古い建物礎石と思われる石がいくつか残っていることから、古代の役所跡と考えられています。国分寺の礎石と同じ石材で、径も105cmほどあるため、役所の重要な施設に使われたと考えられます。郡本という地名が「郡」に通じることから、市原郡推定地とされていますが、国府なのか郡府なのか、詳しいことはわかっていません。



市原

市原地区の古瓦出土地は、市原地区の古瓦出土地とされています。市原地区には古瓦が出土した荒巻寺跡寺、「万葉集」の「阿須波の神」を連想させる阿須波神社があるほか、辻地区で大型の建物跡が見つかり、注目されています。郡本地区には「古甲」「古光」など「古国府」に通じる地名があり、古代の施設跡が見つっています。村上地区は養老川水運の要所で、古代の施設が見つかり、国府津の可能性が指摘されています。



市原歴史博物館

上総国 国府市原郡に在り

和名類聚抄

上総国 土府三在市原郡 行程管十一
千八百四十六町九段二百三十五
正公各四十七萬東本綿波七百三
稲二千七百七十市原良伊知府海
萬千七百七十市原良伊知府海
畔蒜留阿比望陁太末宇周淮李天
夷瀨伊志長柄良加山邊乃末武
埴生

和名類聚抄

十五

上総国 土府三在市原郡 行程管十一
千八百四十六町九段二百三十五
正公各四十七萬東本綿波七百三
稲二千七百七十市原良伊知府海
萬千七百七十市原良伊知府海
畔蒜留阿比望陁太末宇周淮李天
夷瀨伊志長柄良加山邊乃末武
埴生

和名類聚抄

十五

承平年間(九三一〜九三八)に源順(みなもと
の・したごう)が著した日本最古の漢和对訳辞
書(百科事典)。「和名抄」とも呼ばれている

上総国分寺・国分尼寺(跡)



国衙の郊外に建立された



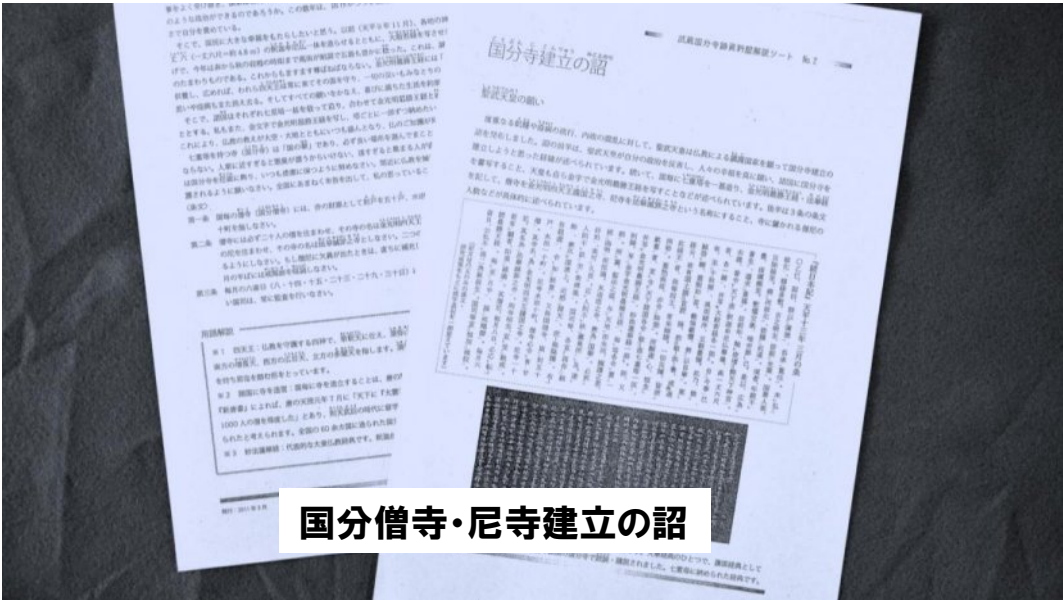
国分寺・尼寺建立の詔(741年2月)が新たな
国衙づくりのきっかけか？



国分尼寺・再現建物

山越の推理。741年12月の安房国の上総国への併合。一大事業で労力や石材(蛇紋岩など)確保が急務。国分寺・尼寺の軸のA期とB期のゆれ

上総国衙には、良い場所が限られる。頭を悩ませた為政者。国衙の移転を決断



国分僧寺・尼寺建立の詔

国分寺(七重塔)は「国の華」
人臭のしない好い所に建てよ

歴代(奈良時代)の上総守

733年 多治比広足
741年 紀広名

武蔵国守 従三位 中納言

中納言・紀麻呂の子。子に真人。上総国守を務めた後に大学の頭。少納言。東海道巡察使

746年 百済王敬福

741年2月に国分寺建立の詔。同年12月に安房が上総国に併合される

従三位、刑部卿。陸奥国守の時に管内で黄金を発見。

東大寺大仏造立に大きく貢献。その後に7階級特進して従三位となる。多くの国守を務めた。上総国守は741年4月から8月まで。短期間の任務は迅速な国分寺建立のために東国(関東)の渡来系技術家集団のコーディネートが目的だったのではないか

746年 藤原宿奈麻呂

宇合(式家)の子。越前の守から上総国守。従二位、右大臣。747年に国分寺造営督促の詔が出る

749年 石川名人

藤原仲麻呂一派。後に武蔵守。造宮卿になる。経歴から見て、名人が都市づくりのエキスパートとして本格的に国衙移転と国分寺建立を進めたのではないか

754年 大伴稻君
759年 藤原魚名

大納言・大伴安麻呂の子。因幡守、大和守。大伴家持の叔父

房前(北家)の五男。正二位、左大臣。藤原秀郷は子孫。その頃には国衙と国分寺と整備が整ったのでは

市原市が「上総国府跡」に本格的に調査始める

「平成」に入って



国分寺台の開発で「惣社説」否定される

村上や郡本・門前地区に注目集まる

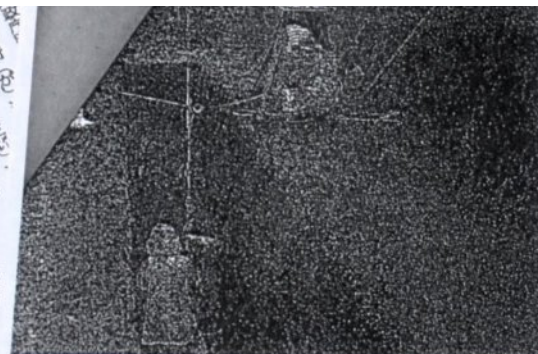
市原の巨大溝遺構
大発見の裏には
調査員の確かな眼力

国府所在地

「大化の改新」以来時代に中央政府の先機関だった「上総」の所在地確認調査をしている市原市文化財センターが、市原市

5/1 毎日
市原・古甲遺跡から巨大な溝跡

巨大な溝跡遺構が発見された



史最大のナゾ解明へ

巨大な溝遺構を発見
「上総国府」政庁跡か

幅約8メートル。東西の地割り。表採で磚と獣脚



千葉日報記事・1面トップと地方面

郡本・古甲地区・1993年(H5)2月

の壁には柱穴とも思われる遺構も見つかった



郡本・門前説



村上説



市原説



能満説



郡本（古甲）説

郡本は市原郡・郡家の
名残か

郡本八幡神社の巨大礎石に注目

上総国分寺・尼寺跡の礎石
と同種（房州石・蛇紋岩）



上総国分寺跡・七重の塔礎石



上総国分尼寺・復元建物



村上説

国分寺の所在する「惣社」という地名を重視。開発で惣社地区が消えると台地下の村上地区を想定。養老川の水運も考慮。石井則考氏、須田勉氏が唱えている

能満説について



府中日吉神社

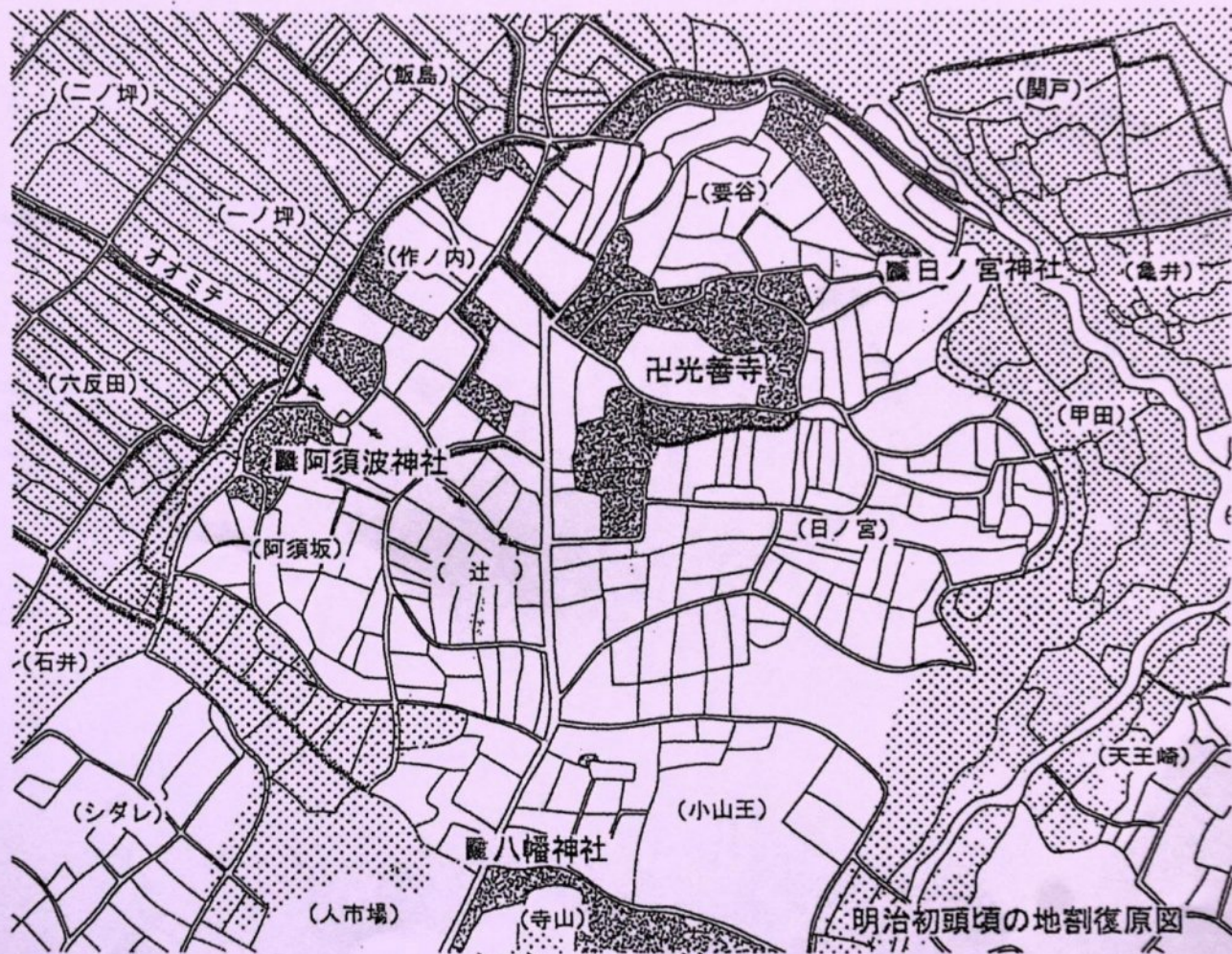


『府中』がよりどころ

わたしの「上総国府」研究のきっかけ

神社の三社が鎮
大王社（石祠）
しています。社格

と、下図（明治
を取り囲むよう
いるのではない
ましょう。市原
取り囲まれた、
東西から谷が入
のが八幡神社で
座しています。
が海岸部の五所
市原条里制遺跡
とが明らかな道
南北に延びるま
北側を登ってき
南北の道の東
られます。いつ
市原地区の神社



明治初頭頃の地割復原図

〔市原市郡本周辺の遺跡と文化財〕
市原の神社と柳楯神事・田所真

村の神社が四囲を取り囲むよう
に鎮座している。決して不規則
に置かれていたのではない

田所真氏の「市原の神社と柳楯神事」（市原
市郡本周辺の遺跡と文化財）

ふるさと市原をつなぐ連絡会

5月例会講座

令和6年5月15日

会・山越国

わたしが想定した「上総国府（国衙）」の持論

謎の上総国府を解く

～古甲・古光は古国府(ふるこう)だった～

国衙は市原台地上を移転した？

十五、六年前から講座や論文で唱えてきた

【はじめに】 みなさま、こんにちは。わたしは「市原里づくりの会」の山越です。ふるさと市原をつなぐ連絡会・5月例会の講座(座学)は、いまだに所在地が分からない「上総国府(国衙)」をテー

令和6年5月の「ふるさと市原をつなぐ連絡会」例会・講座資料レジメ

なぜ「上総国府(国衙)」は市原地区が有力か

様々な国衙にふさわしい遺構や遺物が検出されている

「国府市原郡に在り」市原市内で大字に「市原」は市原地区だけ

古甲・古光地区は平安時代初期には市原郡衙域だった可能性

本来あるべき市原遺跡群が郡本遺跡群に包括された。市教委も市原説を有力視しているのではないか(証左)

風水的に最適。四神相応の地。玄武(北・山)白船山、清龍(東・川)能満川、朱雀(南・くぼ地、池)宝積寺、白虎(西・街道)古代道

上総国府は**台地上**か**低地**の二択に絞られた

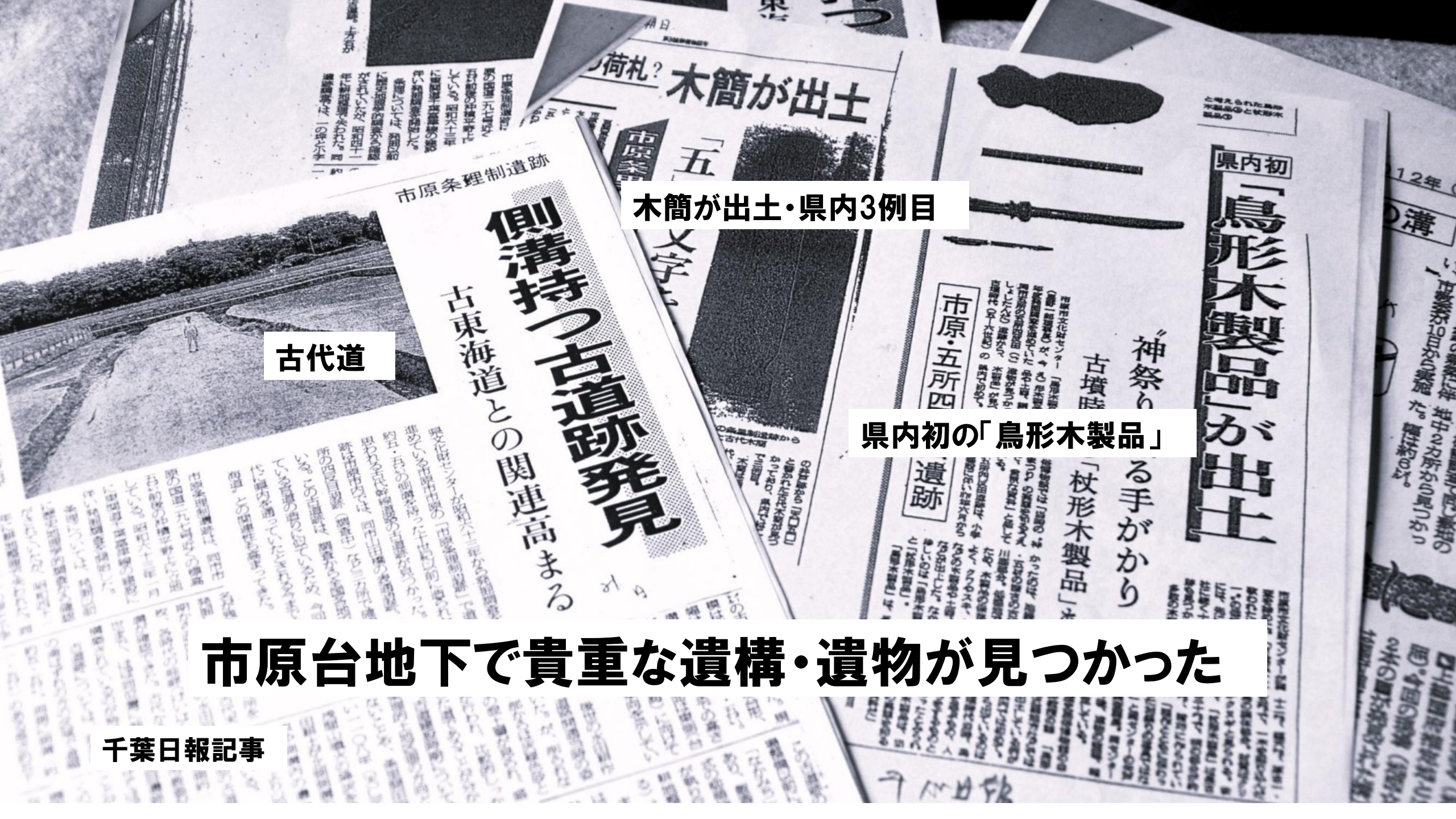
木簡が出土・県内3例目

県内初の「鳥形木製品」

古代道

市原台地下で貴重な遺構・遺物が見つかった

千葉日報記事





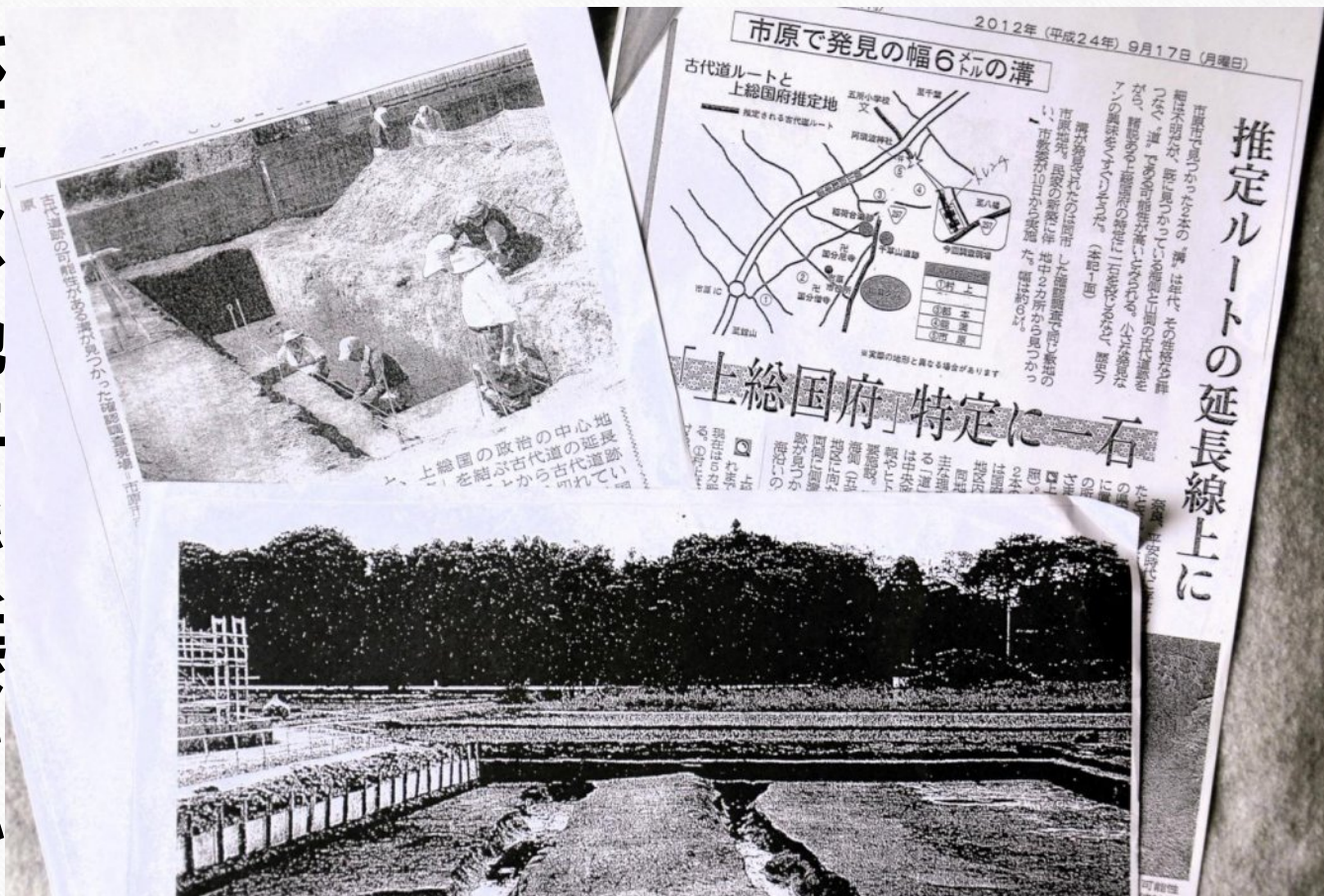
市原市市原の発掘現場(当時)



「市原」いちほらフィールドマップより

「上総国府」は市原台地か

古代道は台地上まで延びていた



新発見を伝える新聞記事。「上総国府」特定に一石

条里（字名）の残る水田

条里制遺構がうかがえる。近くに
国衙や郡家が存在する場合が多い

今でも1ノ坪、2ノ坪、3条町など
の字名が市原台地下にある

市原市市原・阿須波神社から・昭和30年ごろ

市原歴史博物館で展示
(状況)説明している

巨大な建物跡の発見

The Discovery of Huge Building Ruins

いち はらじょう つじ ち く ほったてばしらたてもの あと
市原城跡辻地区からは古代の掘立柱建物跡が見つかっています。地中に柱を埋めた建物で、柱穴は径214.5cm×149.5cmもありました。建て替えによる柱穴の拡大があったとしても、掘立柱建物としては巨大で、役所や寺の重要施設以外には考えられません。当時の国府には、中心庁舎である国庁こくちょうのほか、多くの施設が展開していました。この建物も国府と深くかかわる施設だったと考えられます。



市原郡本周辺

市原説有力。発掘確認調査(考古学)からの検証

発掘調査で見つかった古代の建物柱跡(市原城跡辻地区)



市原市で最大の柱穴跡



国衙・外郭か

幅3m. 薬研堀。全国基準



掘立柱建物跡(重要官衙か)

何度も同じ柱が建て替えられた



区画溝？検出

市原八幡神社

市原八幡神社方向に延び
ていることが分かる

溝跡くっきり





表採した瓦や土器など遺物

麦飯石(影向石)



市原の柳楯神事(県無形民俗文化財・ちば文化資産)の起源説が残る

源頼朝・行基伝説も

大型建物の礎石を思わせる石



光善寺境内

上総国府解明は地図帳

市原市内の杜寺配置からアプローチ

いろいろな事が想定できた



寺社配置を「点」と「線」で追った

変形な四角形

市原

「神社3点直線」の法則

郡本・門前

能満

5町域の空白地帯生まれる

市販の「市原市全図」から

諸国の国府・国衙の四隅
に祠（神社）が置かれたケー
スが多い（木下良・「国
府」）がヒント

日笠宮神社

阿須波神社

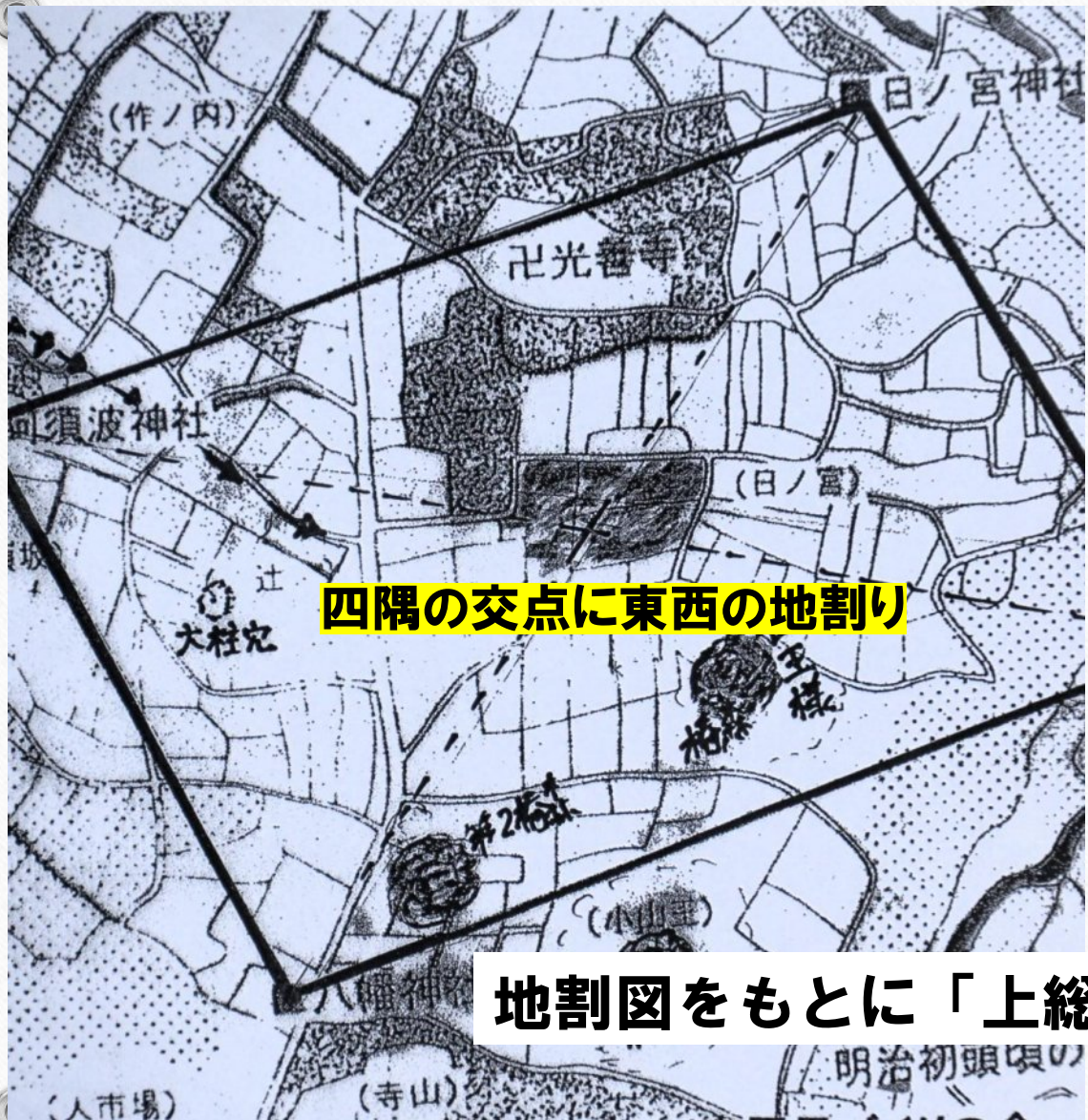
天王様？

天子南面す。東西の地割りにも注目した

市原の神社と柳楯神事・
田所真(市原市郡本周辺
の遺跡と文化財)参照

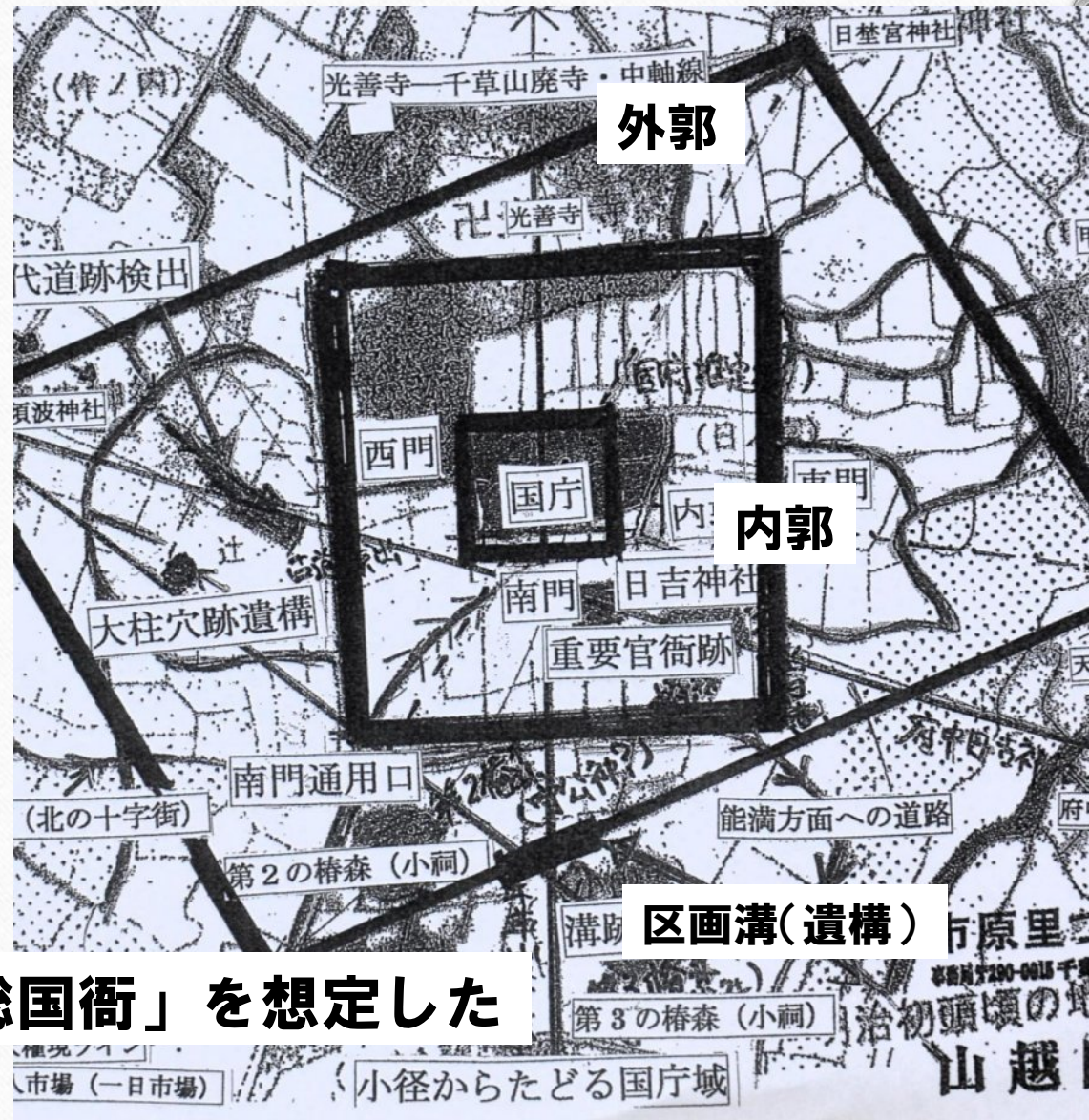
市原八幡神社

明治初頭頃の地割復原図



四隅の交点に東西の地割り

地割図をもとに「上総国衙」を想定した

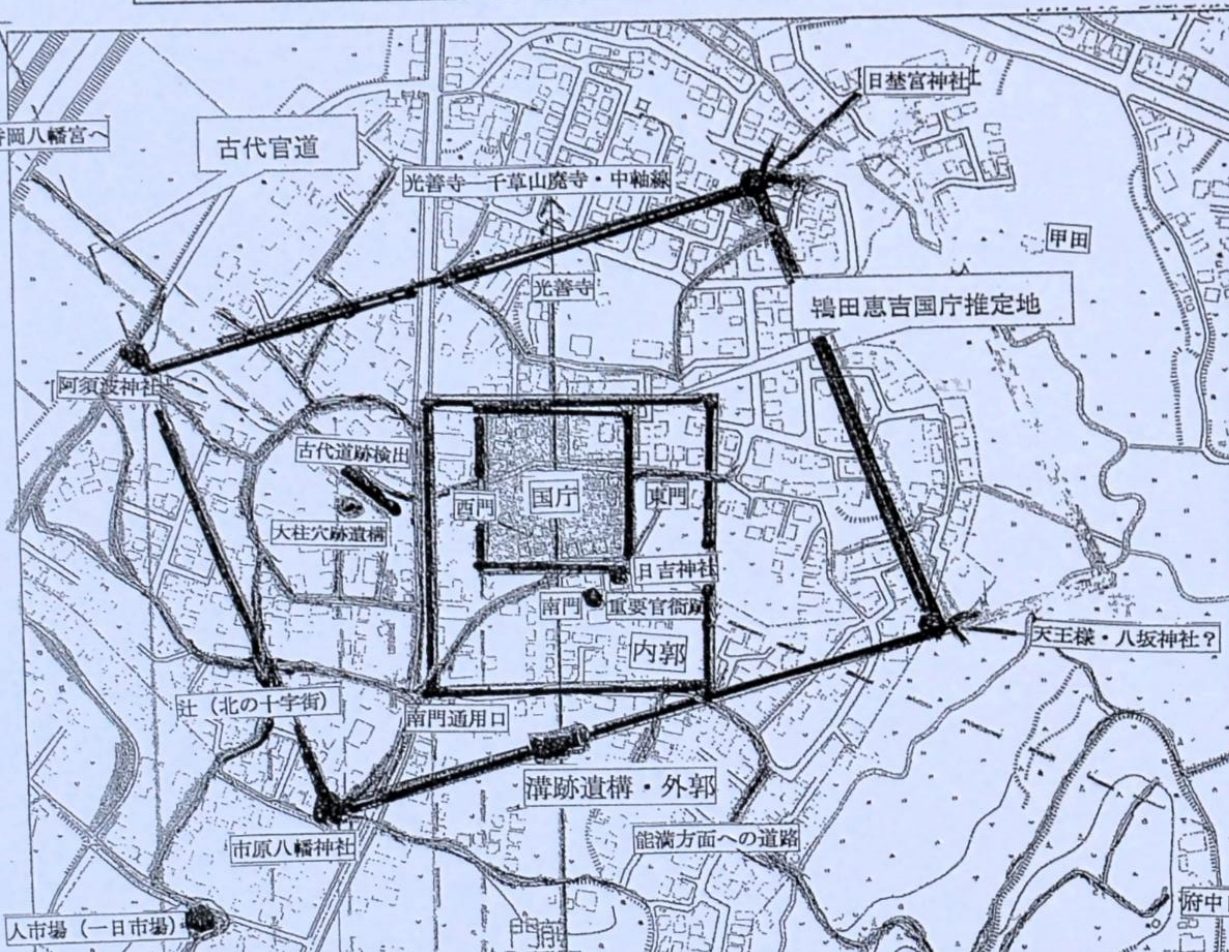


外郭

内郭

区画溝(遺構)

古甲国府推定地→市原国府推定地（山越國臣説）



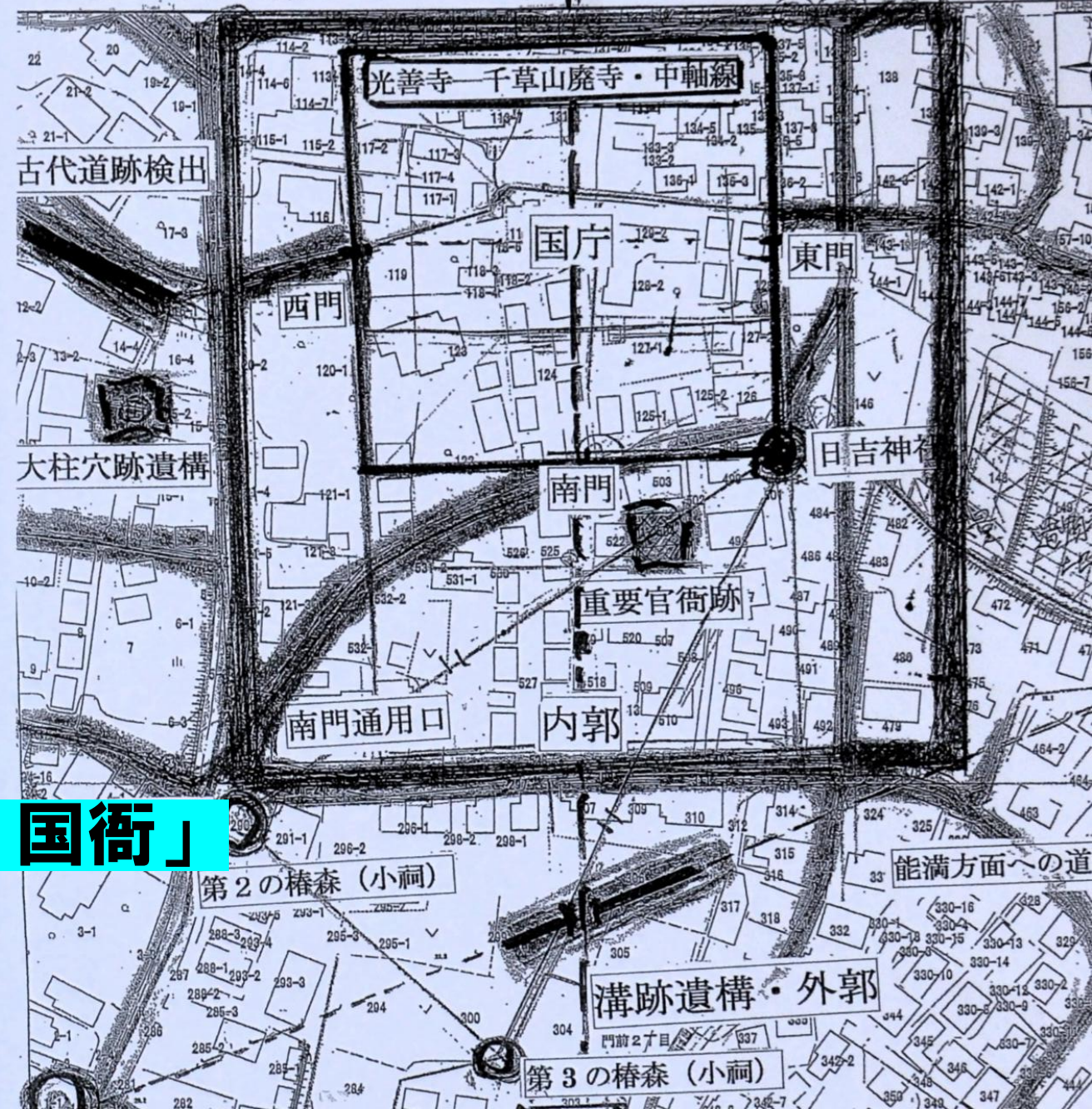
山越が導き出した「上総国府・国衙」

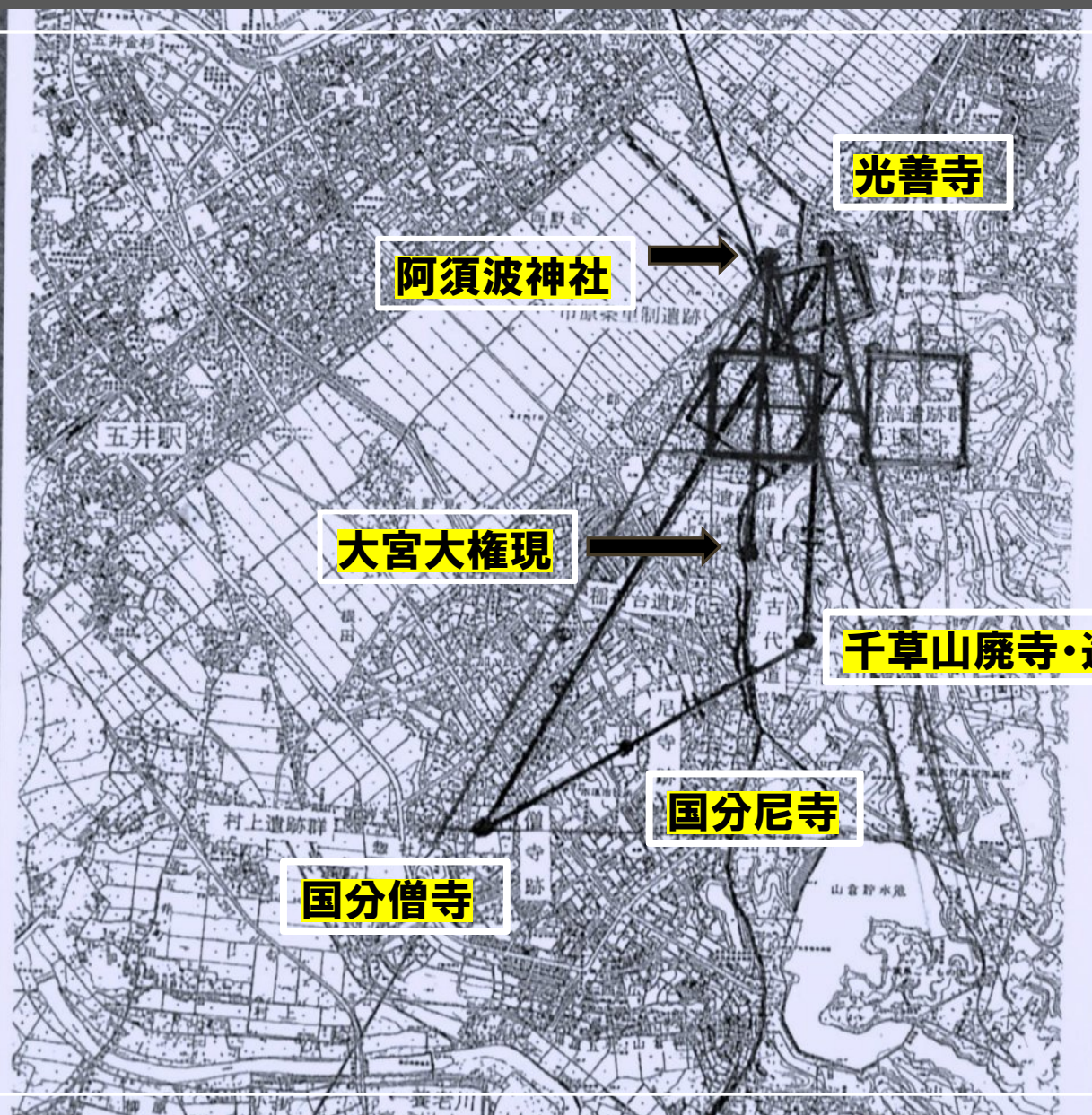
今も残る小路も参考

古甲地区推定

市原城跡門前地区

平成16年地形図と地番図





光善寺

阿須波神社

大宮大権現

千草山廃寺・遺跡

国分尼寺

国分僧寺

古国府(郡本・門前地区)時代の中心軸



阿須波神社(市原地区)



大宮大権現。郡本八幡神社境内・
元は藤井地区にあった

国衙移転後の中心軸



市原歴史博物館周辺(千草山廃寺)



光善寺



万葉集・防人の歌碑が
建つ「阿須波神社」



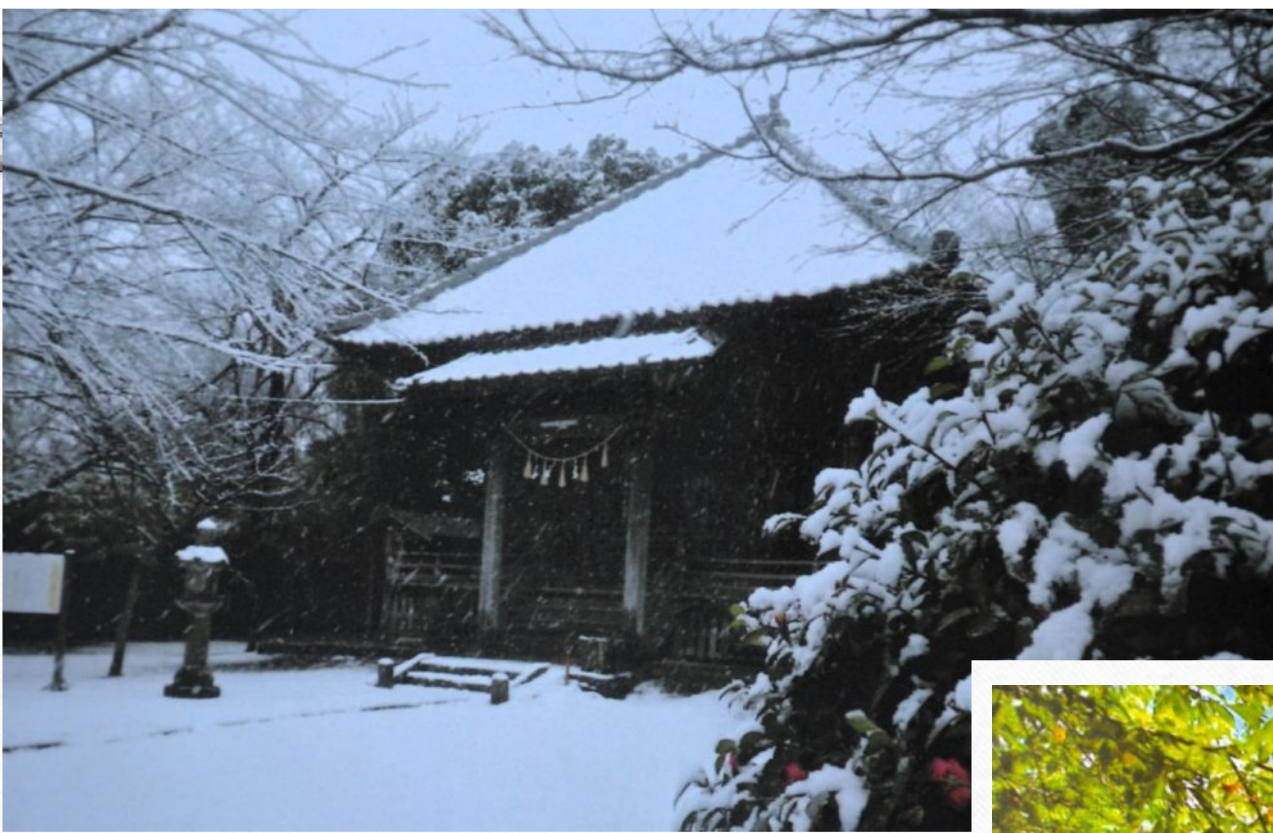
市原の鬼門を守護する
「日埜宮神社」

「市原」の集落を 取り囲む形の神社



飯香岡八幡宮の元宮といわ
れる「市原八幡神社」

市原市市原1番地。市原市
は、ここから始まっている



光善寺の四季

上総国の付属寺院か郡司寺か
国分寺・尼寺建立以前に存在したという

国衙解明の力ギ握る



昭和30年(1955)ごろの光善寺



光善寺・薬師堂と鐘楼



真言宗豊山派・神光山光善寺本堂

薬師堂

東西の地割り

「国府」研究者はこの写真に注目する

光善寺から椿森（南方面・上総国庁？）方面を望む



椿森(日吉神社)

昭和30年(1955)ごろ

台地(畑)がなだらかな球面状になっている

新たな発見！



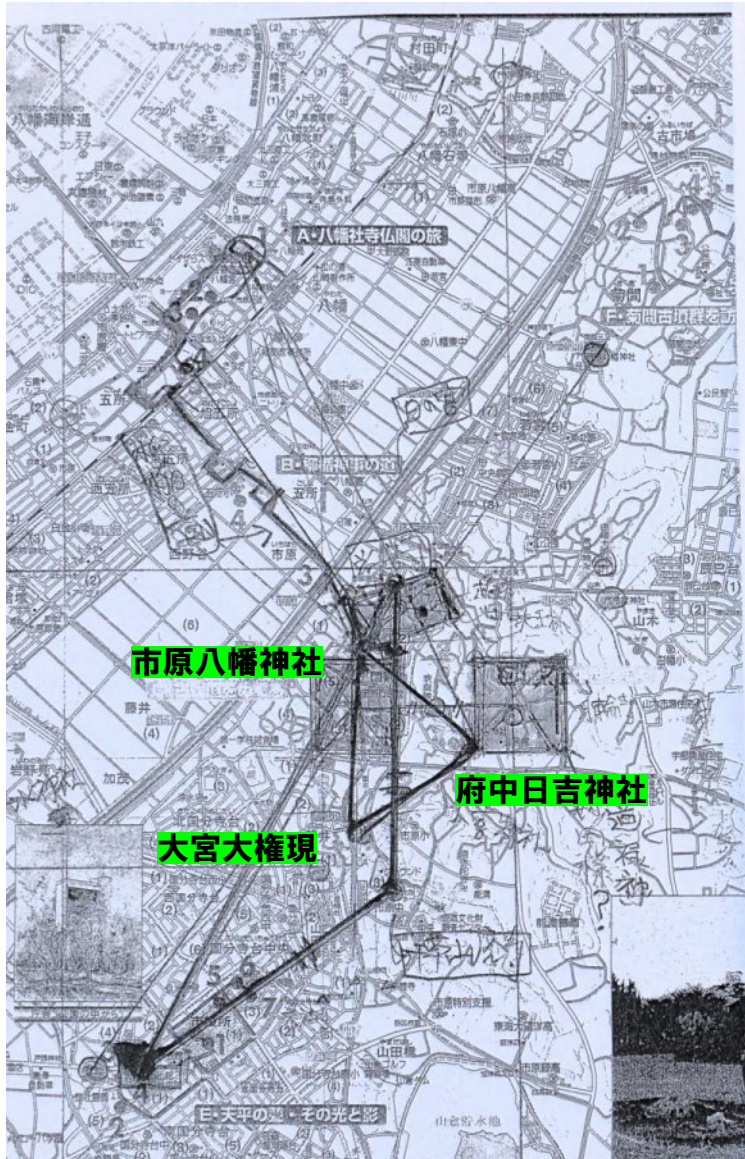
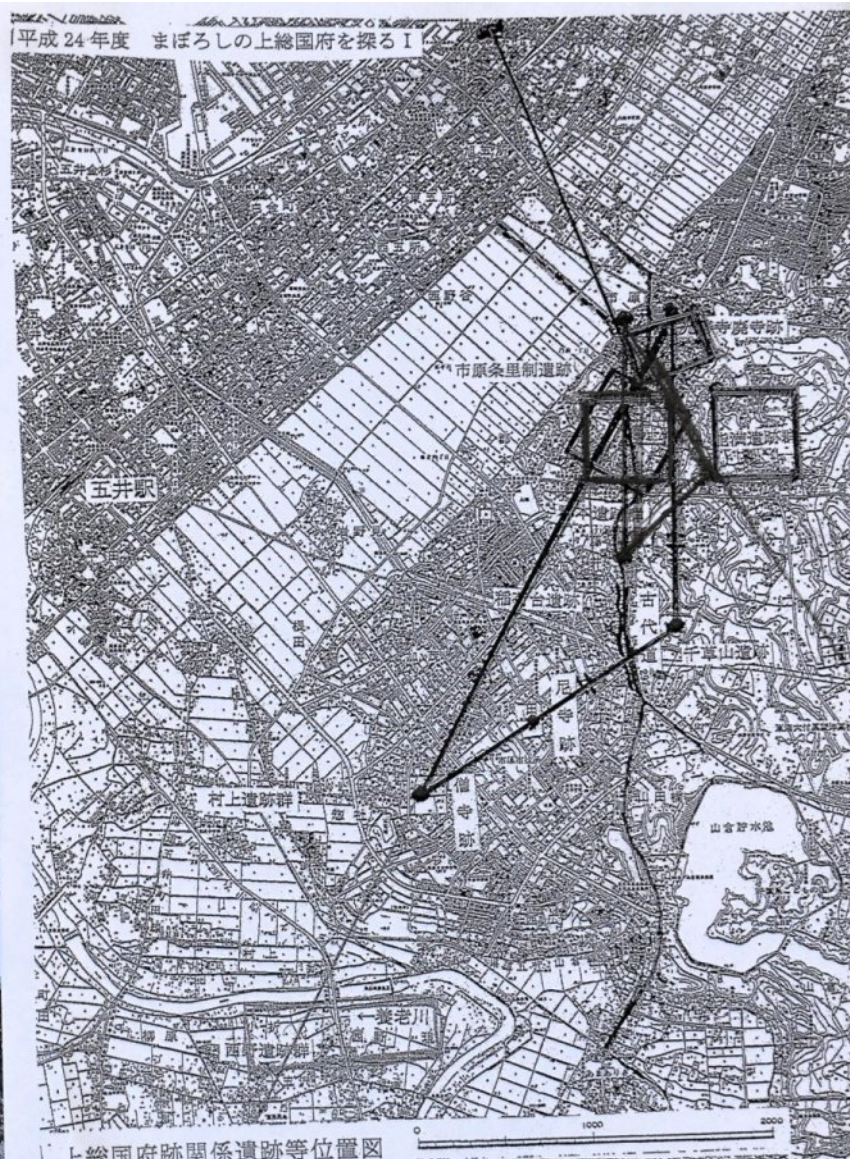
多門寺(市原市郡本)

国衙解明に一步



日の宮(市原市門前・古甲)

上総の国づくり。基本形がありそう



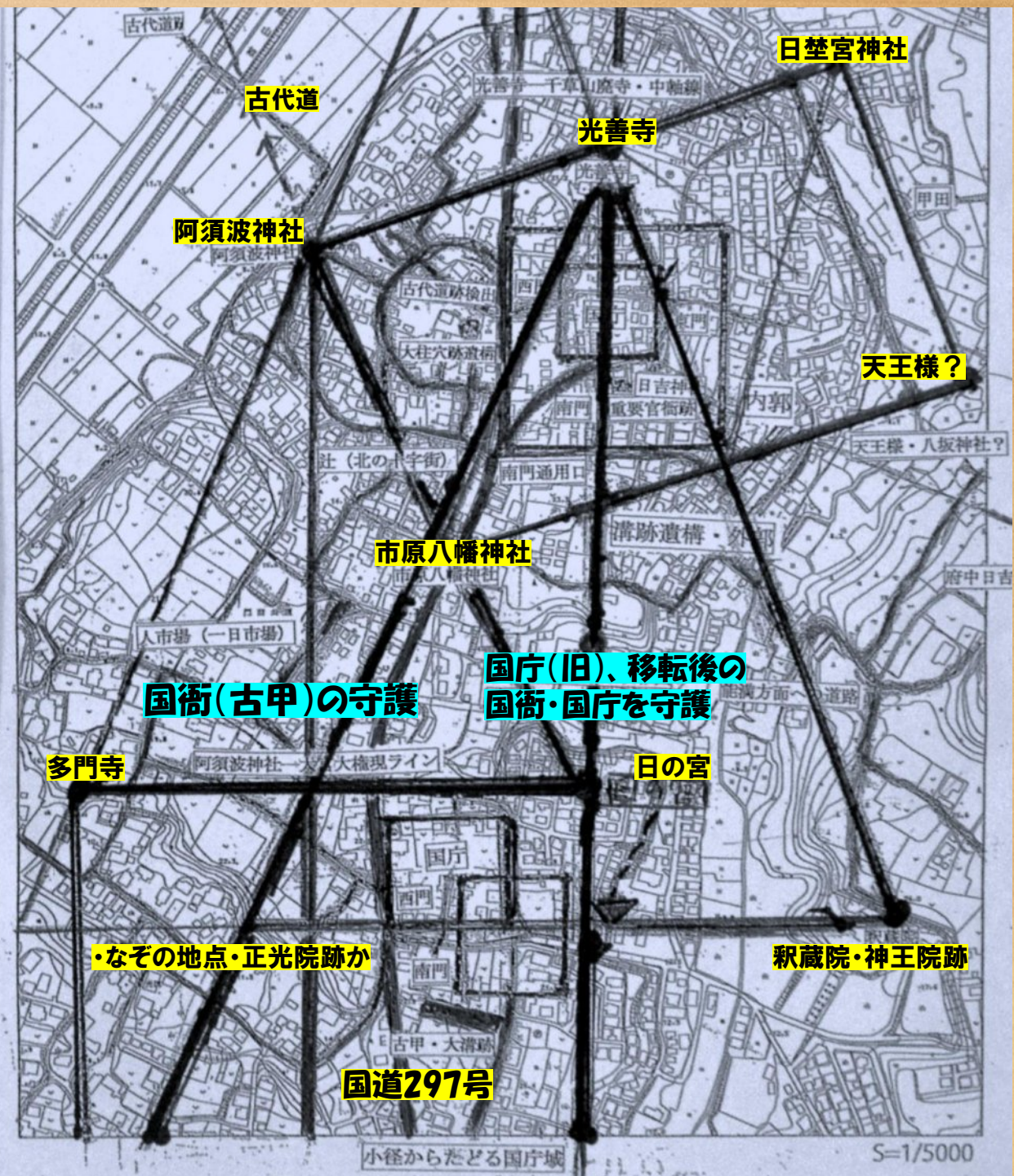
古代の人々（都市づくり）は三角
形の思想があった？

国衙が台地上を移転したのでは



山越想定図

国衙の移転。二本の中軸線と三角形の組み合わせで説明できる



国衙(古甲)の守護

国衙(旧)、移転後の
国衙・国庁を守護

・なその地点・正光院跡か

国道297号

天王様？

釈蔵院・神王院跡

日の宮

小谷からたどる国庁城

S=1/5000

S=1/5000

国府（こくふ）：府中（ふちゅう）…………… 国衙を中心とする都市域のこと

郡本・市原説

- 「府中」の名称が能満にある府中日吉神社が残っている。中世国府があり、古代の国府もあったという説。
- 藤井地区に伝わる銘文、懸仏には、「守公神御正所者上総国府中国府目代日高彈正朝光沙弥道光」（表銘文）「金資弘覚大進沙門応永 9 年」（1402）6 月 1 日（裏銘文）とある。
- 郡本・市原周辺には、字名に、門前字古甲・藤井字古光が存在する。古甲は古国府。
- 広範囲に奈良・平安時代の遺構が広がっている。

郡本・市原説

大宮大権現

千草山廃寺 (市原中学校)

村上説

移動説

- 古代の国府・国庁は必ずしも一か所にとどまっていない。
- 出羽 国府などのように低地を低い

古国府(郡本地区)イメージ図

村上説

- 隣接地に国府と関連する「惣社」（総社）が地名として残る。総社は国府の近くに置か

阿須波神社

光善寺

市原八幡神社

多門寺

正光院？

日の宮

釈蔵院

国庁エリア

郡庁エリア

郡本八幡神社

南大路・朱雀道

来光寺

光善寺—千草山ライン

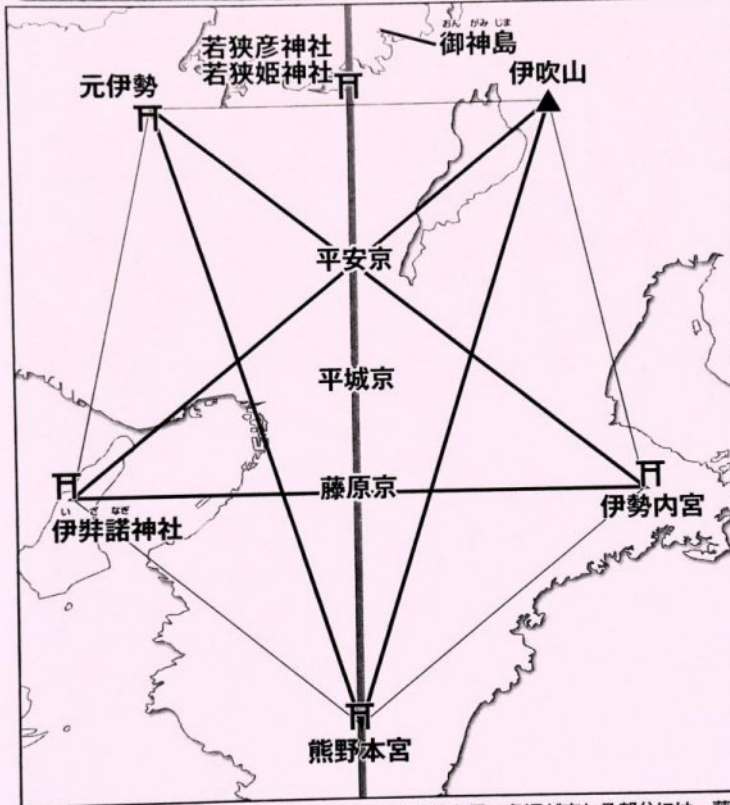
阿須波—大宮ライン

国庁エリアから郡庁エリアを望む(想定)



藤原京、平城京、平安京守護した五芒星の結界

藤原京、平城京、平安京を守護した五芒星の結界



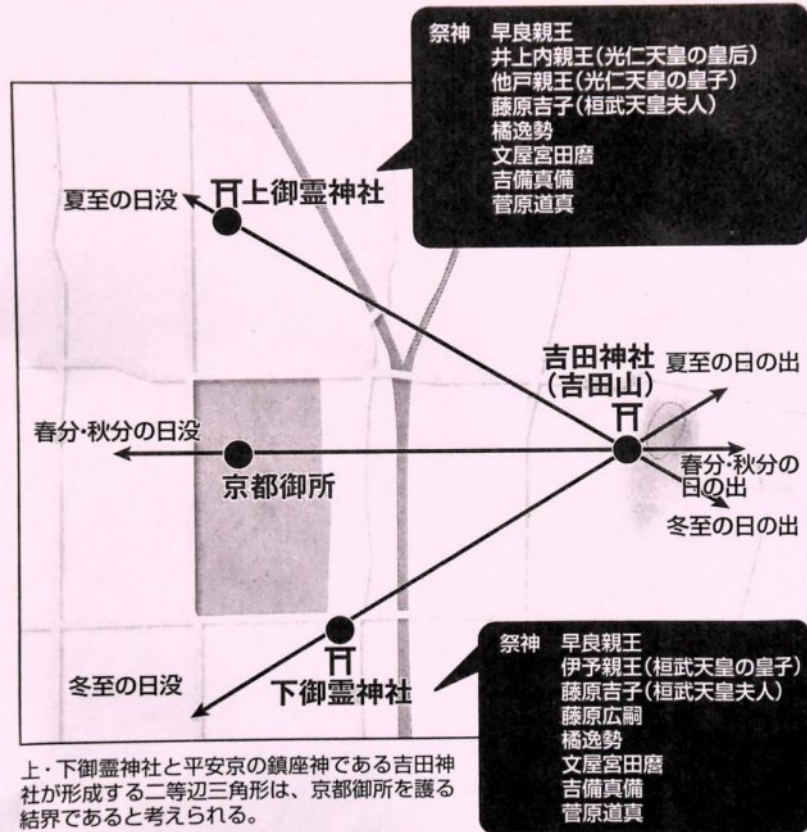
近畿地方に隠された巨大五芒星の結界。その中心線と星の各辺が交わる部分には、藤原京、平城京、平安京が並んでいる。

中心は平城京。意図的に張られた「結界」
だとしたら本来は平城京を「守護すること」
が主な目的かも？

地図でわかる天皇家の謎(宝島社)

京都を守護する御霊神社の神々

京都御所を守護する御霊神社の神々



怨霊を祀る神社。ただ意味もなく建立されていたわけではない。平安京には二重三重のバリアが張られた

地図でわかる天皇家の謎(宝島社)

謎の東国三社の位置関係

東国三社の位置関係



東国三社は古
描き出される。

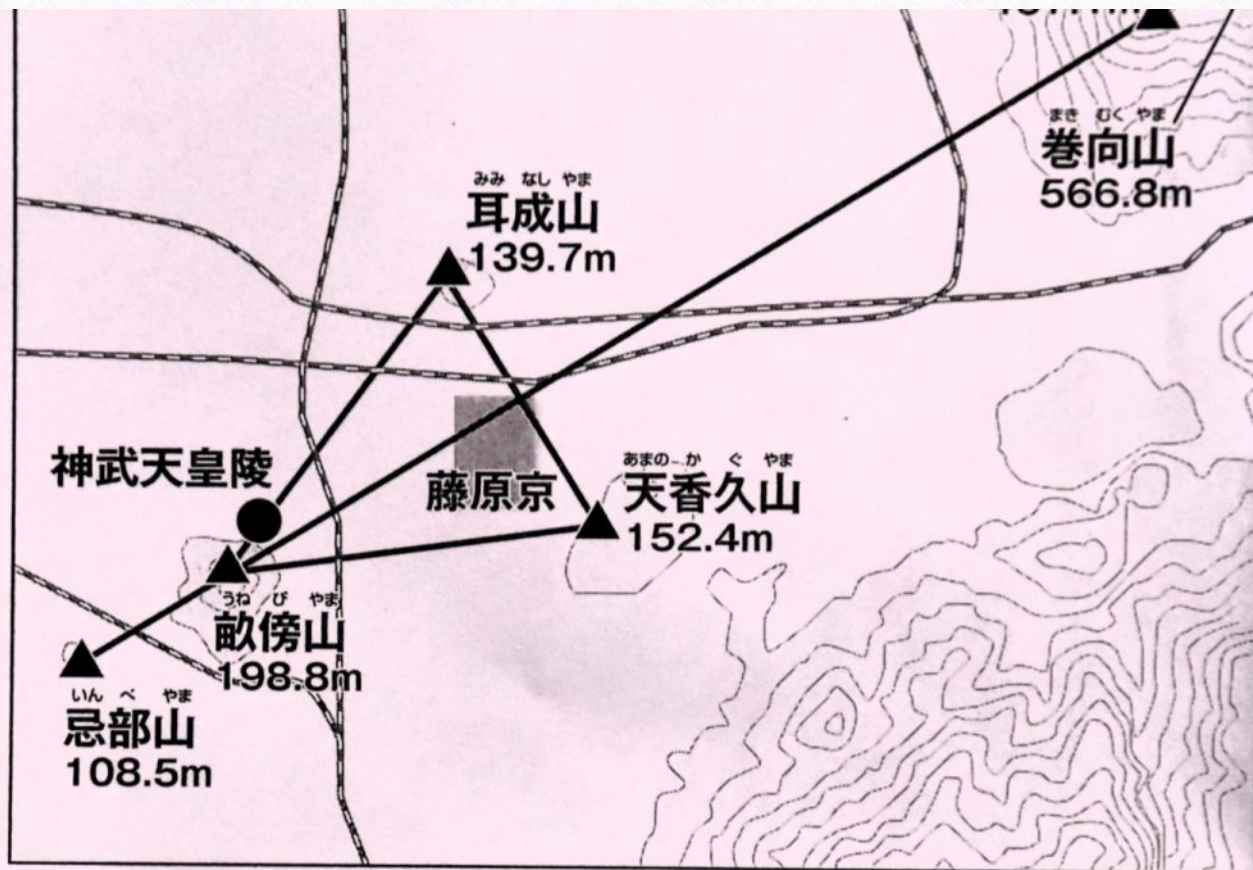
地図で楽しむすごい千葉(洋泉社)

辺三角形が
)を元に作成。

鹿島神宮、香取神宮、息栖神社

軍事拠点として三社が置かれた
可能性。方角的にも宗教的にも
意味があったのだろう

大三角形を描く大和三山



大和三山が見事な二等辺三角形をなしているだけでなく、忌部山(古く宮廷祭祀を担った忌部一族の山)、畝傍山(神武天皇が即位した山)、三輪山が一直線に並んで重要な山が、完全な対称形のは単なる偶然ではなく、いくつかが人工的に造成・整形されていると考えられる。

地図でわかる天皇家の謎(宝島社)

きれいに配置された三つの山
(天の香久山、耳成山、畝傍山)
古代。飛鳥地方の人々はシンボル、
心の支えの山々として崇めていた
三角形はほぼ完全に対称形
をつくっている

いま一度「上総国府」を考えてみよう

地名(字)の再点検

誰が「上総国府」を隠したのか



「人市場村」、「惣社」の存在

後世の人たちを惑わせた

門前地区にも日の宮(市原市門前)。北東の鬼門方向



姥神社・市場神



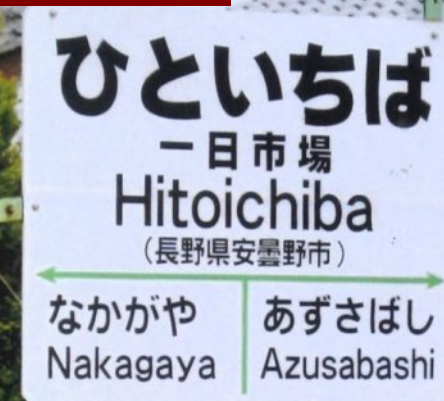
姥神社の森

市原市門前字人市場

一日市場(人市場)と「市原」、「国府」の関係



市原市教委・講座資料より



長野県安曇野市・JR大糸線「一日市場駅」

岐阜県瑞浪市

一日市場

瑞浪市

市原

朝日町

市原

225

196

467.5

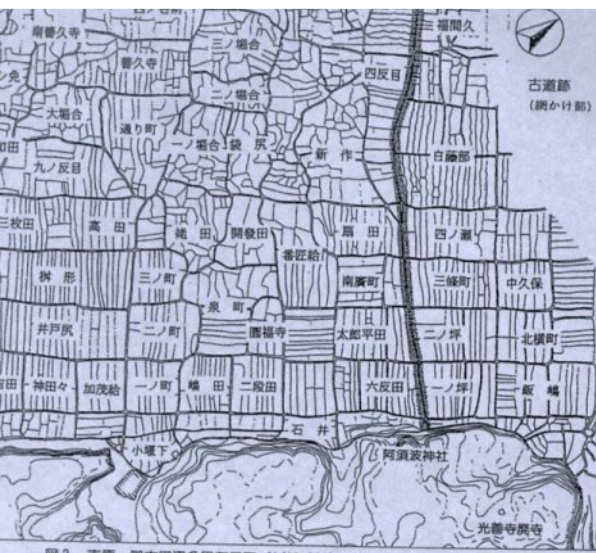
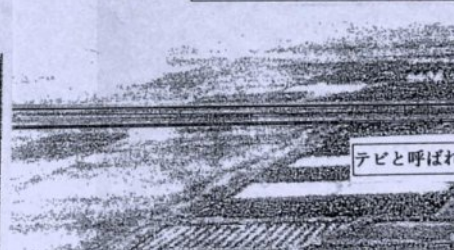


図2 市原・都本岡辺条里復元図 (1/10,000)



図2 市原・都本岡辺条里復元図 (1/10,000)

「上総国府」への交通・荷物運搬に用水路が「運河」を兼ねた？

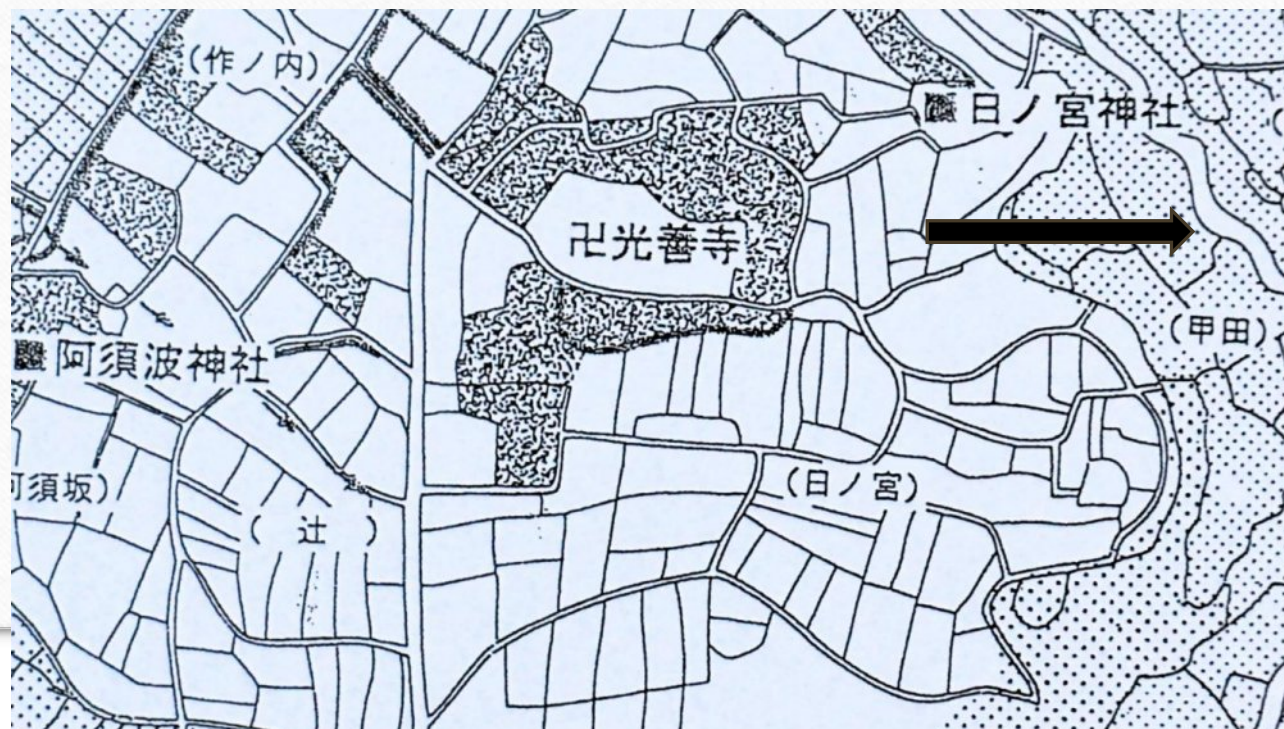


「上総国府」の交通・運搬手段は養老川、村田川（境川）のほかに用水路・小河川を運河として利用したのでは？

古代道跡と条里制水田の名残

北横町(庁？)ー横町ー南横町

能満川(東側)と西側水田(てび・用水路)の利用





V I Pを西方面から迎えた？

二つのムカエ

郡本地区にムカエ(迎え?)屋号の民家

市原地区のムカエデー(向台)字名＝迎えの第・迎賓館か＝

国府の内港(舟だまり)の可能性

小堰(市原市郡本)

まとめ

- 郡本地区の古甲で「市原厨」銘墨書土器見つかる。9世紀初頭で「市原」の文字では県内最古
- 発掘調査で判明した大型建物。100年後の廃絶は、すでに国司は国司館(官舎)政務を行い不要になった？
- 郡本・門前地区(古甲・古光)は平安時代初期には市原郡衙域だった可能性が高まった。国衙はどこに
- 上総国衙の立地は市原地区が最有力と考える
- 国衙は移転した？郡本・門前→市原地区
- 初期国衙(郡本)の中心軸、移転後の市原地区の中心軸。二つの中心軸と三角形の組み合わせで移転が想定できる。市原地区の変形四角形に配置された謎も解けた
- 移転のきっかけ。741年2月の「国分寺・尼寺の詔」だったのでは。上総では建立場所が限られる
- 国分寺・尼寺建立と新たな国衙づくりが同時並行で行われた？
- 安房国(741年12月)の上総国への併合。国分寺・尼寺のA期、B期軸のゆれなどが傍証。757年の再度の分立
- 市原地区の考古学的検証。発掘確認調査で区画溝、官衙建物的遺構、台地上までの古代道延伸遺構が検出
- 一日(人)市場と市原との関係。養老川だけでなく運河として小河川、用水路の活用
- 古代道(官道)の存在。二つのムカエ(迎え？)。郡本地区のムカエ(屋号)、市原地区の向台(迎えの第(館))
- 「上総国府」の消去(排除)の可能性。人市場、惣社などの存在が後世の人たちを混乱させた

今後の上総国府(国衙)探求

謎の上総国府の解明。古甲(郡本・門前)、市原地区の畑地を地主が手放すケースが目立っている。今後、それに伴っての発掘確認調査が行われデータが上書きされていく。全容が分かる日も近い



2025年6月 市原市郡本・古甲地区

上総の国衙

古代道が知っている

終わり

ご清聴ありがとうございました